

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

6

2003年3月

大阪府教育委員会



はじめに

大阪府教育委員会文化財調査事務所は、平成9年4月、大阪府における文化財の調査と保護の拠点として設立され、今日に至っています。文化財調査事務所では埋蔵文化財発掘調査だけでなく、出土資料の整理から報告書刊行までを一元的に行い、その収蔵・保管、さらに公開・活用も進めているところであります。

本書「大阪府教育委員会文化財調査事務所年報」は、文化財調査事務所設立当初から毎年刊行しているものでありますが、毎年の主要な調査成果の速報や、普及啓発・広報事業の概要を取め、それらを府民の皆様いち早く公開する役割を果たしております。

しかしながら、昨今の厳しい状況は文化財保護行政にも深刻な影響を与えております。地方分権の進捗、調査基準の策定など、私たちの責任が大きくなる一方で、行財政改革の旗の下、様々な事業に見直しが進められています。必ずしも思うような結果の得られないこともあります。貴重な文化財を将来に伝えていかなければならないという信念に基づき、最善の努力を続けていきたいと思っております。

バブル経済の崩壊以来、大阪府は未曾有の財政危機にありますが、公共事業に先立つ埋蔵文化財調査はむしろ増加の傾向にあります。平成13年度においても多くの発掘調査を実施し、貴重な成果を取めました。その主要な調査成果を一冊にまとめたのが本年報であります。本書が広く活用され、文化財保護の一助になることを願ってやみません。

平成15年3月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長 小林 栄

例 言

1. 本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第6冊である。
2. 本書には、本府教育委員会が実施した平成13年度発掘調査及び普及啓発活動等を記載している。
3. 本書の3・4表には平成13年度に本府教育委員会が実施した全ての埋蔵文化財調査を記載している。
4. 埋蔵文化財調査のなかの主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。
なお、概要報告表題の調査番号は第3・4表の調査番号と一致する。
遺跡名（平成13年度調査番号）
 - (1) 所在地
 - (2) 調査面積
 - (3) 現地調査実施期間
 - (4) 調査の原因となった事業
 - (5) 調査担当者
5. 概要報告は各調査担当者が、「平成13年度における埋蔵文化財調査の概況」は、調査管理グループ資料総括主査大野 薫が執筆した。
6. 巻末の普及啓発活動、貸出・掲載許可依頼等の資料一覧は、調査管理グループで作成した。
7. 本書の編集は、調査管理グループが行った。
8. 本年報は500部作成し、一部あたりの単価は712円です。

目 次

はじめに

例言

目次

挿図目次・表目次

平成13年度における埋蔵文化財調査の概況	1
発掘調査概要報告	
御屋北遺跡(01001)	7
木の本遺跡(その2)(01004)	9
紅茸山南遺跡(01008)	10
田能北遺群(01011)	11
府中遺跡他(01012)	12
岸和田城跡(00066・01014)	13
余部遺跡(01015)	14
久宝寺遺跡(01016)	15
西大井遺跡(01018)	16
福井遺跡(01019)	17
大和川今池遺跡(01020)	18
吉井遺跡(01021)	19
府営住宅試掘調査(01022・01023・01024・01025・01057)	20
加納・平石古墳群(01026)	21
堺環濠都市遺跡(01027)	25
亀井遺跡(01030)	26
跡部遺跡(01032)	27
陶器南遺跡(01033)	28
雁屋遺跡(01038)	29
佐備川B地点遺跡(01040)	30
平尾遺跡(01041)	31
男里遺跡(01042)	32
若江北遺跡(01047)	33
岡中新池(01048)	34
天王地区遺跡確認調査(01050)	35
禪城寺遺跡・宇保遺跡(01052)	36
胸ヶ谷遺跡(01053)	37
中野北遺跡(01055)	38
城山(長原)遺跡(01060・02002)	39
普及啓発・広報事業	40
資料の貸出・掲載・閲覧	43
文化財保護課・文化財調査事務所組織図	47

挿 図 目 次

第1図	調査位置図	6	第37図	シシヨツカ古墳全景(南より)	23
第2図	周辺の遺跡(1/20,000)	7	第38図	墳丘第1段前面貼石・ 羨道・石室	23
第3図	調査区位置図(1/6,000)	7	第39図	墳丘北側濠底敷石・段築貼石	23
第4図	H地区北壁の基本層序模式図	8	第40図	シシヨツカ古墳遺構・遺物検出状況 (現地説明会資料に拠る)	24
第5図	H地区溝11及び E地区土坑1出土土器	8	第41図	調査地位位置図	25
第6図	H地区溝11出土木製輪鏝	8	第42図	調査坑断面図(1/50)	25
第7図	馬鍬出土状況(1)	9	第43図	木棺検出状況	26
第8図	馬鍬出土状況(2)	9	第44図	調査区位置図	27
第9図	自然流路	10	第45図	平安時代の溝	27
第10図	掘立柱建物	10	第46図	土層堆積状況(第14層~第24層)	27
第11図	出土遺物	10	第47図	調査地位位置図	28
第12図	調査区平面図	11	第48図	調査坑No6・No10	28
第13図	調査地位位置図	12	第49図	四条職高校内調査地点略図	29
第14図	調査坑断面図(1/50)	12	第50図	佐備川B地点遺跡(85)	30
第15図	遺構検出状況と 再建岸和田城天守閣	13	第51図	調査区位置図(1/2,500)	30
第16図	鍛造土坑発見鉄カス・鞆羽口	13	第52図	No2トレンチ(北から)	30
第17図	鍛造土坑発見陶磁器	13	第53図	調査地位位置図	31
第18図	方形区画北東建物群	14	第54図	トレンチ位置図	31
第19図	井戸3-1(奥)・ 井戸3-2(手前)	14	第55図	B区4面大溝、A・B区遺構図 (1/200)	31
第20図	鋳造関連遺構堆積状況	14	第56図	5・6層出土遺物 (S=1/6)	32
第21図	鉄素材・青銅製品片・鉄鍋片	14	第57図	第4面遺物出土状況	33
第22図	1991年度調査区と今回の調査区 (A区部分)	15	第58図	第9面木製品出土状況	33
第23図	H.11ブロック3出土国府型 ナイフ形石器	16	第59図	池内側より見た堤	34
第24図	第4遺構面	16	第60図	樋管の継ぎ目	34
第25図	第5遺構面	16	第61図	蓋のある状態	34
第26図	調査位置図(1/20,000)	17	第62図	蓋を外した状態	34
第27図	A地区遺構全景	17	第63図	遺跡確認調査位置図	35
第28図	周辺の遺跡と調査区位置図	18	第64図	A区第1遺構面全景(南から)	36
第29図	南調査区1区の遺構	18	第65図	A区第2遺構面全景(南から)	36
第30図	調査区配置図及び流路	19	第66図	C区全景(南から)	36
第31図	5区・流路	19	第67図	調査区位置図	37
第32図	大町遺跡・下池田遺跡位置図	20	第68図	調査状況(右が飛鳥川)	37
第33図	安松田遺跡位置図	20	第69図	No3トレンチ(北西から)	37
第34図	橋本野岸ノ下遺跡位置図	20	第70図	調査区位置図	38
第35図	平石谷古墳分布図	22	第71図	No1トレンチ(東から)	38
第36図	シシヨツカ古墳平面・断面図	22	第72図	No2トレンチ(南西から)	38
			第73図	01-1号墳全景(南から)	39

表 目 次

第1表	平成13年度調査件数・面積	1
第2表	事業別・地域別調査面積	2
第3表	平成13年度調査箇所一覧(1)	4
第4表	平成13年度調査箇所一覧(2)	5

平成13年度における埋蔵文化財調査の概況

大野 薫

1. 動向

【はじめに】 平成13年度に本府教育委員会において実施した発掘調査・確認調査・試掘調査・立会は計72件、99,721㎡、遺物整理事業は5件である（一覧表には招提中町遺跡・余部遺跡（その2）・梶遺跡の遺物整理事業が抜けている）。平成11年度・平成12年度に比較して、面積でおよそ2倍に増加している。これは大阪狭山市太満池整備事業の立会で45,000㎡を算入しているため、これを除くと約55,000㎡となり、平成12年度から微増ということになる。以下、太満池整備事業を除いて、地域別、および原因別の動向を見てみよう。ただし、本府では国・公社・公団の事業は財団法人大阪府文化財センターで対応することを原則としており、以下の動向にはそれらを反映していないことを断っておく。

【地域別動向】 平成12年度と比較して、北河内と南河内で調査面積が増加した。北河内の増加分は葦屋北遺跡の調査で16,000㎡（下水処理場）が大きい。この調査は平成15年度まで継続する。南河内では加納・平石古墳群の約10,000㎡（園場整備）、大和川今池遺跡の約6,000㎡（下水処理場）が目立つ。三島・中河内・泉北・泉南は減少した。三島では経持寺遺跡の調査（府営住宅）がほぼ終了し、中河内では木の本遺跡の調査（防災施設）が終了した。泉北では道路と農林関係が確認調査・試掘調査のみとなったため面積が減少したが、平成14年度には発掘調査を実施しなければならないのが数ヶ所ある。泉南では吉井遺跡の調査（府営住宅）が一段落した。一つの区画と外周道路が未調査で残っている。豊能では調査面積に大きな

変動はなかった。大阪市では崇禅寺遺跡の調査（府営住宅）を本府教育委員会において実施した。

【原因別動向】 例年本府事業の過半を占める住宅事業および農林事業を抑えて、平成13年度は下水道事業が最大規模となった。これは先に記したように四條畷市葦屋北遺跡の16,000㎡が大きい。下水道事業では他にも大和川今池遺跡の調査を継続しており、また大井処理場建設に先立つ西大井遺跡の調査も断続的に続く見込みで、下水道事業が多い状況は当分続くようである。太満池を除いても、住宅事業と農林事業が逆転した。住宅事業の面積が半減したこと、農林事業の加納・平石古墳群が10,000㎡と大きかったことによる。両者の事業量にも増減はあろうが、当面は、下水道・住宅・農林の3事業が本府教育委員会の行う調査の中心となろう。現状では、道路・府立高校・河川の事業は合わせても10%にも満たない。大規模道路事業は大阪府文化財センターで対応しているが、今後、大規模道路にアクセスする府道の調査が出てくると予想される。府立高校事業は、生徒数減少のおり、統廃合や建て替えに伴う小規模調査が中心となる。この分野で事業量が大幅に増える見込みはないとみてよからう。

2. 各地域の主要な調査

【豊能地区】 能勢町天王地区において、中山間地域総合整備事業（園場整備）に先立ち試掘調査・確認調査を実施した。その結果、4地区のうち3地区において新たに遺跡を発見し、湯田遺跡、大道遺跡、馬場ノ下遺跡と命名した。発掘調査は次年度以降に実施することになった。また、池田

		豊能	三島	北河内	中河内	南河内	泉北	泉南	大阪市	合計
住宅	件数	0	1	0	1	2	0	6	1	11
	面積(㎡)	0	2,814	0	16	3,030	0	3,772	1,708	11,340
農林	件数	2	3	0	1	2	2	5	0	15
	面積(㎡)	162	3,698	0	160	55,150	76	1,004	0	60,250
道路	件数	2	4	1	2	3	3	3	0	18
	面積(㎡)	147	35	3	279	169	752	133	0	1,518
下水	件数	0	1	2	5	5	0	0	1	14
	面積(㎡)	0	25	16,060	402	6,039	0	0	172	22,698
高校	件数	0	0	1	0	1	1	1	0	4
	面積(㎡)	0	0	200	0	20	6	300	0	526
河川	件数	0	0	0	3	3	0	0	0	6
	面積(㎡)	0	0	0	1,050	339	0	0	0	1,389
その他	件数	1	0	0	3	0	0	2	0	6
	面積(㎡)	8	0	0	1,478	0	0	514	0	2,000
合計	件数	5	9	4	15	16	6	17	2	74
	面積(㎡)	317	6,572	16,263	3,385	64,747	834	5,723	1,880	99,721

第1表 平成13年度調査件数・面積

市榊寺遺跡・宇保遺跡では道路拡幅に先立って発掘調査を続けており、平成13年度は奈良時代や鎌倉時代の溝・土坑を検出した。ナイフ形石器も出土している。

【三島地区】 茨木市福井遺跡では府営住宅建て替えに先立って発掘調査を実施し、弥生時代後期の溝、飛鳥時代の集落、平安時代の掘立柱建物、鎌倉時代の谷などを検出した。中でも飛鳥時代の集落は6世紀末～7世紀初のもので、掘立柱建物5棟以上、堅穴住居3棟、それらを区画する溝などが検出されている。高槻市紅草山南遺跡では平成12年度に引き続き発掘調査を行い、中世の掘立柱建物・土坑・ピット・自然流路などを検出している。高槻市田能北遺跡は北摂山間盆地にあり、平安時代初期に遡る可能性のある掘立柱建物をはじめ、平安時代中期や同後期以降の掘立柱建物を検出した。この地域に開発が及んだ時期を把握できたものと考えられる。

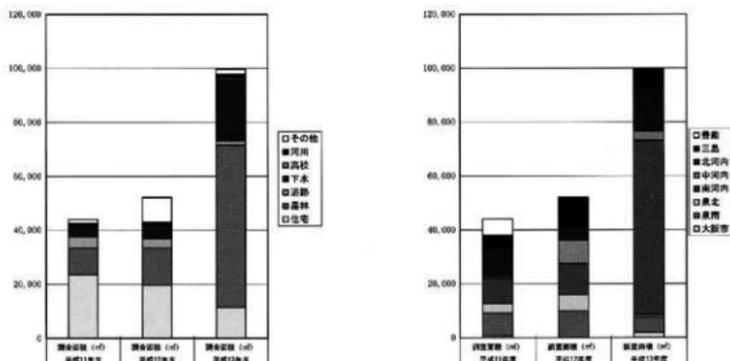
【北河内地区】 四條畷市薮屋北遺跡では古墳時代の溝から、土師器・須恵器・韓式系土器・木製品・動植物遺体等、多種多様な遺物が出土している。中でも木製輪鍔はカシの板材を削り抜いた実用品で、5世紀後半ごろに位置付けられる。また、第2次試掘調査（E地区）では古墳時代の製

塩土器が多量に出土している。この付近では朝鮮半島からの渡来者集団が馬の飼育や牧の経営にかかわったと考えられており、薮屋北遺跡はそれらに関連した重要な施設が設置された場所の可能性があると云えよう。四條畷市雁屋遺跡では府立四條畷高校内で水道管理設に先立ち発掘調査を行った。細長い調査区で遺構は自然流路を検出したにとどまるが、弥生土器・土師器・須恵器などが多量に出土している。

【中河内地区】 八尾市木の本遺跡では平成12年度から防災拠点施設の整備に先立って発掘調査を実施している。平成13年度の調査では溝・土坑・自然流路などを検出した。溝内から馬銜も出土している。若江北遺跡・久宝寺遺跡・亀井遺跡・城山遺跡はいずれも下水道事業堅坑の発掘調査で、面積も60㎡～172㎡と小規模である。いずれの遺跡も弥生時代の遺構・遺物が中心となる。若江北遺跡では弥生時代後期中頃の第4遺構面から完形の土器が多量に出土した。さらに下層から弥生時代後期初頭頃の遺物や弥生時代中期後半の遺物、弥生時代中期の木製品などが出土している。久宝寺遺跡では過年度に調査した方形周溝墓の続きを検出した。亀井遺跡では押しつぶされた状態の木棺を検出した。方形周溝墓の主部と考えると

	平成11年度		平成12年度		平成13年度	
	調査面積 (㎡)	比率 (%)	調査面積 (㎡)	比率 (%)	調査面積 (㎡)	比率 (%)
住宅	23,590	53.6	19,623	37.6	11,340	11.4
農林	9,832	22.3	13,817	26.5	60,250	60.4
道路	4,159	9.4	3,504	6.7	1,518	1.5
下水	4,149	9.4	5,066	9.7	22,698	22.8
高校	8	0.1	425	0.8	526	0.5
河川	841	1.9	530	1.1	1,389	1.4
その他	1,456	3.3	9,220	17.6	2,000	2
合計	44,035		52,185		99,721	

	平成11年度		平成12年度		平成13年度	
	調査面積 (㎡)	比率 (%)	調査面積 (㎡)	比率 (%)	調査面積 (㎡)	比率 (%)
農林	6,026	13.7	310	0.5	317	0.3
三島	4,883	11.1	10,629	20.4	6,572	6.6
北河内	10,396	23.6	4,978	9.5	16,263	16.3
中河内	665	1.5	8,768	16.8	3,385	3.4
南河内	9,324	21.2	11,450	22	64,747	65
東北	3,531	8	6,240	11.9	834	0.8
泉南	8,638	19.6	9,810	18.8	5,723	5.7
大阪市	572	1.3	0	0	1,880	1.9
合計	44,035		52,185		99,721	



第2表 事業別・地域別調査面積

れる。周溝の上層からは弥生時代中期の土器が多量に出土している。城山遺跡では埋没古墳2基と方形周溝墓2基を検出した。古墳のうちの1基からは埴輪・最古段階の須恵器・木製品が出土しており、5世紀初頭頃の築造と見られる。方形周溝墓は供献土器からみて弥生時代中期後半のものであろう。

【南河内地区】 藤井寺市西大井遺跡は平成10年度から実施している水処理施設の追加部分の発掘調査で、2面の条里型水田を検出した。松原市大和川今池遺跡では中世の遺構としては鎌倉時代と推定される今池の堤、溝・ビット・土坑などを、近世の遺構としては、井戸・耕作溝などを検出している。大和川今池遺跡の発掘調査は次年度も継続する。美原町余部遺跡は府営住宅建て替えに先立つ発掘調査で、鎌倉時代前期を中心とした区画溝、その内部に密集する建物群、井戸、铸造関連遺構などを検出した。美原町平尾遺跡はバイパス建設に先立ち試掘調査を実施したものである。全城で遺構・遺物が検出され、8世紀後半には大溝で限られた建物群の存在が予想された。河南町加納・平石古墳群は開場整備に先立って発掘調査を実施したものである。平成13年度は前年度に発見されたシシヨツカ古墳の調査などを行った。その結果、シシヨツカ古墳は切石積横穴式石室を内部主体とする終末期古墳で、3段築成の方形の墳丘を有し、表面には貼石を施していた。墳丘の周囲には漆をめぐらし、さらに南側周濠の外側には幅5mほどのテラスが造られている。石室内は盗掘にあったが、羨道入り口付近に羨道を埋める際に埋置したと思われる須恵器の甕が2点あり、うち1点に4点の高杯が納められていた。石室内からは漆塗籠箱・亀甲網繁文銀象嵌円頭大刀柄頭・鉄製挂甲・金銅装馬具および飾り金具・銀製帯金具などの残欠や金糸・ガラス玉が散乱していた。出土遺物からみて、築造時期は6世紀末～7世紀初頭と考えられている。

【東北地区】 堺市堺環濠都市遺跡、堺市陶器南遺跡、和泉市府中遺跡などの試掘調査・確認調査を行った。その結果、上記3遺跡はいずれも本格的な発掘調査が必要と判断されたものである。発掘調査は次年度に行う予定である。

【泉南地区】 岸和田市岸和田城跡は府立高校の建て替えに先立って発掘調査を行ったものである。平成13年度の調査区は廃藩置県まで筆頭家老の中家屋敷地にあたる場所である。中家屋敷に関する遺構は削平のため検出できなかったが、17世紀初頭頃の鍛造土坑・焼土遺構が検出された。岸

和田市吉井遺跡は府営住宅建て替えに先立つ発掘調査で、古墳時代前期以前の自然流路から布留式期の遺物がまとめて出土している。泉南市男里遺跡は平成7年度から継続している堤体改修工事に先立つ発掘調査で、平成13年度の調査では縄文時代晩期末～弥生時代前期の遺物包含層を層位的に把握するとともに、弥生時代後期後半～古墳時代前期、7世紀後半～8世紀前半の集落の存在を示唆する資料を得た。

【大阪市】 府営住宅の建て替えに先立って崇徳寺遺跡の発掘調査を実施した。年末に調査に着手し、調査担当者が変わって平成14年度も調査を継続した。崇徳寺創建時の寺域を画する大溝や5世紀中頃の古墳が検出された。

【遺物整理事業】 磯之上十ノ坪遺跡、西大井遺跡、招提中町遺跡、余部遺跡（その2）、梶遺跡の遺物整理事業を実施した。磯之上十ノ坪遺跡・招提中町遺跡・余部遺跡（その2）・梶遺跡はいずれも府営住宅の建て替えに先立って発掘調査を行ったもので、平成13年度に遺物整理および報告書発行を行った。招提中町遺跡では北河内地域の台地上における弥生時代中期の墓城の様相を詳細に報告している。余部遺跡（その2）では中世河内錫物師集団の工房や屋敷地の具体相を明らかにしている。西大井遺跡は旧石器時代の石器を中心に遺物整理を行い、次年度も遺物整理事業を継続する。

3. 普及・啓発

【現地説明会】 平成13年度は、岸和田市岸和田城跡・茨木市福井遺跡・美原町余部遺跡・河南町シシヨツカ古墳など計4回の発掘調査現地説明会を開催し、計約1,500名の府民の参加をみた。なかでもシシヨツカ古墳の現地説明会には800名の参加があり、出土遺物を展示した近つ飛鳥博物館まで府のマイクロバスを運行した。

【展示】 本府教育委員会が行った発掘調査や遺物整理事業の成果をいち早く府民に公開するべく、平成12年度から府立泉北考古資料館において「速報展」を開催している。平成13年度は「部屋北遺跡」をはじめ、計9回の速報展を開催した。また府庁別館においても出土品の一部を展示している。

【貸出】 長期貸出（1年）17件、短期貸出・掲載許可84件、資料閲覧63件があった。近年、府立高校や市町村博物館・資料館への長期貸出が増加する傾向にある。

調査 番号	道路名	所在地	種別	調査開始	調査終了	実施面積 (㎡)	担当者	事業名	備考
01001	夜尿北道路	田原町大字砂、黒原地内	堤防	H13.4.2	H13.6.6	60	宮崎 孝史	門島屋川直浜幹線下水道管 渠築造工事	
01002	西大井道路施設整備		整備	H13.4.2	H14.3.29				
01003	磯之上ノノ井道路 施設整備		整備	H13.4.2	H14.3.29				
01004	木の木道路 (その2)	八尾市空港1丁目	築堤	H13.3.6	H13.9.14	1,316	横田 明	中広域防災拠点整備事業	H12・13年度事業
01005	道路外	岸和田市白草	立会	H13.4.24	H13.4.24	122	藤澤 廣哉	一般国道 (旧) 170号線道路 改良工事	
01006	道路外	額田町	立会	H13.5.15	H13.5.15	500	藤澤 廣哉	京都大学原子学実験所サイト センター建設	
01007	香屋北道路	田原町香屋	免状	H13.6.1	H14.3.29	16,000	山上 弘志	管理川流域下水道事業なかて 水環境保全センター	H13・14年度事業
01008	紅葉北道路	高槻市安濃北の町	免状	H13.7.2	H13.9.14	720	井西 貴夫	府営ための地帯整備事業 〔安濃新地地区〕	
01009	西大井道路隣接地	岸和田市西大路	立会	H13.7.2	H13.7.2	6	藤澤 廣哉	西道田治水老圃事業建設費	
01010	耳坂道路	茨木市耳坂	確認	H13.7.4	H13.7.4	8	奥 和之	上野地方茨木水鳥園建設	
01011	田原北道路	高槻市大字田原	免状	H13.7.1	H13.12.14	2,950	奥 和之	府営農地還元資源利活用事業 〔野田地区〕	
01012	府中道路池	和泉市肥土町1丁目、 府中町1丁目	確認	H13.7.9	H13.7.9	27	亀島 孟則	都市計画道路都泉中央線建設	府中道路園田試大
01013	駒ヶ谷第一牧草地	羽曳野市駒ヶ谷	立会	H13.7.9	H13.7.9	60	今村 道雄	一般河川戎島川改修	
01014	岸和田城跡	岸和田市岸和田	免状	H13.5.1	H13.7.11	300	西川 寿博	岸和田岸和田歴史館	H12・13年度事業
01015	余部道路	美原町北余部	免状	H13.7.23	H14.3.22	3,000	西川 寿博	府営美原北余部住宅建設費	
01016	久宝寺道路	八尾市久宝寺町	免状	H13.6.2	H13.7.24	60	小林 義孝	龍野川南側地下河川久宝寺 掘削	
01017	木の木道路	八尾市空港2丁目	確認	H13.6.2	H13.7.24	150	横田 明	一般河川後堀川八尾尾城跡防 基工事実施事業	
01018	西大井道路	藤井寺町西大井1丁目 407-1	免状	H13.9.3	H13.9.6	24	大瀬 康夫	大和川下流部排水下水道事業 大井尾池水処理施設建設費(第二期)	
01019	福月道路	茨木市豊原町地内	免状	H13.7.31	H14.1.31	2,814	宮崎 孝史	府営福月住宅建設費	
01020	人和川今池道路	松原市天満西7丁目	免状	H13.9.17	H14.5.29	5,920	阿部 幸一	大和川下流域地下水涵留地 地帯排水処理施設建設費	H13・14年度事業
01021	青井道路	岸和田市青井町3丁目地内	免状	H13.9.3	H14.3.29	3,528	大瀬 康夫 藤澤 廣哉	府営岸和田青井住宅建設費	
01022	道路外	岸和田市藤原町、大町、 下海田町	試験	H13.7.25	H13.8.2	78	杉本 清英	府営久米田第2、第3、第4 住宅建設費	大和道路幹線試大 土油道路幹線試大
01023	道路外	原佐野市栗沢倉崎町	試験	H13.8.6	H13.8.9	54	杉本 清英	府営栗沢倉崎住宅建設費	大和川道路 新堀免
01024	道路外	貝塚市橋本、森	試験	H13.8.20	H13.8.23	84	杉本 清英	貝塚橋本、貝塚森住宅建設費	橋本野井ノ下道路 新堀免
01025	道路外	富田林市北人件	試験	H13.9.12	H13.9.13	30	杉本 清英	府営北大人住宅建設費	道標・遺物交し
01026	加納・平石古墳群	河南町加納・平石地内	免状	H13.8.23	H14.3.29	10,150	今村 道雄 折本 隆	中山郡地域総合整備事業 〔南河内こせ地区〕	
01027	堺線堺都市道跡	堺市津之町東1・2丁、 橋屋町東1・2丁先	確認	H13.9.20	H13.9.25	240	亀島 孟則	府道津大和南田線電線共同 溝整備工事	
01028	海塚道路	貝塚市海塚	免状	H13.9.28	H13.9.28	14	西口 福一	貝塚社会保険事務所増築	
01029	三島・西園街道	茨木市中原町	確認	H13.9.28	H13.9.28	7	藤本 知秀	一般府道余野茨木線建設事業	
01030	亀井道路	八尾市南亀井町3丁目	免状	H13.10.22	H13.12.28	109	藤田 道子	後堀川流域下水道事業	
01031	西大路道路	岸和田市西大路	確認	H13.10.11	H13.10.11	5	藤澤 廣哉	府道津田米田岡線歩道設置	
01032	藤原道路	八尾市藤原北の町	免状	H13.10.9	H14.3.29	215	小林 義孝	都市計画道路久宝寺太田線 建設	
01033	陶器南道路	堺市辻之内地内	試験 確認	H13.10.29	H13.11.12	40	亀島 孟則	府営ほけ整備事業 〔陶器北地区〕	陶器南道路 確認試大
01034	日下貝塚	水大阪市日下	立会	H13.10.29	H13.11.22	100	江本 武	後堀川流域下水道事業	
01035	道路外	茨木市森原	試験	H13.11.13	H13.11.13	18	藤本 知秀	府道茨木水鳥園改良事業	道標・遺物交し
01036	辻ヶ島児塚跡	箕面市辻ヶ島	確認	H13.11.29	H13.11.30	20	井西 貴子	河内425号線道路改良事業	
01037	坂門道路	能勢町野崎中	確認	H13.11.22	H13.12.5	24	江本 武	府営ほけ整備事業 〔野崎地区〕	
01038	藤原道路	西條町藤原北の町	免状	H13.11.28	H14.2.15	200	井西 貴子	岸立西条高水下水道管移設	

第3表 平成13年度調査箇所一覧(1)

調査番号	道路名	所在地	種別	調査開始	調査終了	実施面積 (㎡)	担当者	事業名	備考
01036	安成寺跡	茨木市安成	確認	H13.11.26	H13.12.4	28	泉本 知寿	府営たみ池等整備事業 安成池地区	
01040	佐伯川B地点遊歩	富田林市電系	確認	H13.12.4	H13.12.4	34	西口 隆一	府営甘南井川内勝歩道 設置工事	
01041	平尾遊歩	高槻市平地地区	確認	H13.12.10	H13.12.26	96	亀島 東則	手宮地方遊歩河田林緑 (南西ハイパス) 新設工事	
01042	男星遊歩	泉南市男星	発掘	H13.10.15	H13.12.17	580	河川 泰之 藤澤 真哉	府営たみ池等整備事業 泉南B期地区(取子土池)	
01043	陶色堂跡等(二つ池)	和泉市三林	確認	H13.11.19	H13.11.21	36	藤澤 真哉	府営たみ池等整備事業 二林地区	遊歩・遺物なし
01044	高安古墳群	八尾市大塚	確認	H13.12.18	H13.12.21	160	横田 明	府営農林遊歩津島池河原 身勢良池整備事業(八尾地区)	
01045	田月寺遊歩	八尾市空港1丁目	立会	H13.11.12	H14.1.12	160	横田 明	八尾公共下水建設土木施工	
01046	法福寺遊歩	大阪市東淀川区東中島	発掘	H13.12.17	H14.3.29	1,708	辻本 武	府営崇輝寺住宅建設	H13・14年度事業
01047	青江北遊歩	東大阪市青江西新町3丁目	発掘	H14.1.8	H14.2.18	133	藤田 道子	菟畑川護城下水道事業	
01048	岡中遊歩	泉南市岡中	立会	H14.1.9	H14.1.13	300	藤澤 真哉	府営たみ池等整備事業 泉南B期地区(岡中新築)	本橋
01049	太満池	大阪狭山市池尻北	立会	H14.1.22	H14.1.22	45,000	亀島 東則 西口 隆一	たみ池等整備事業 「太満池整備工事」	
01050	天野遊歩地	豊前郡豊前町天子池内	試掘 確認	H13.12.18	H14.1.18	138	奥 和之	中山岡地域総合整備事業 「天王地区」	発掘ノド遊歩、大塚遺跡、 羽田遺跡発見
01051	水の本遊歩	八尾市安池1丁目	発掘	H14.2.4	H14.3.29	840	横田 明	一級河川藤川八尾広域防犯 基金地盤調査費	
01052	神城寺・宇保遊歩	池田市宇保町	発掘	H14.2.5	H14.3.15	127	泉本 知寿	都市計画道路神田池田線 道路拡幅	
01053	胸ヶ谷遊歩	羽曳野市胸ヶ谷	確認	H14.2.12	H14.2.13	250	西口 隆一	一級河川成川改修工事	
01054	藤上山内墳	藤井寺市野中1丁目	立会	H14.2.21	H14.2.21	45	西門 康一	美陵ポンプ場外周防改修工事	
01055	中野北遊歩	富田林市中野町	確認	H14.3.26	H14.3.27	39	西口 隆一	府営美原太子線 (東ヶ池工区) 道路改良事業	
01056	上所遊歩	太子町太子	確認	H14.3.29	H14.3.29	29	西門 康一	一級河川太子川改修工事	
01057	遺跡外	泉佐野市佐野町台	試掘	H14.1.28	H14.1.31	28	杉本 信英	府営牧野町台住宅建設	遊歩・遺物なし
01058	本郷遊歩	柏原市本郷1丁目、 今町1丁目	確認	H14.2.22	H14.2.25	64	小林 義孝 丹野 真子	都市計画道路人形本郷線	
01059	金岡遊歩	堺市金岡町2651	確認	H14.2.19	H14.2.19	6	藤澤 真哉	府立金岡高校セミナーハウス 建設	
01060	城山遊歩	大阪小平野区長吉出戸 7丁目	発掘	H14.2.19	H14.4.25	172	藤田 道子	菟畑川護城下水道事業	
01061	南浜遊歩橋接地	高槻市南高4丁目	試掘	H14.2.20	H14.2.20	23	奥 和之	池川右岸護城下水道面筋 ポンプ場建設ポンプ場施設整備	
01062	果穂藤部市遊歩	堺市東区町東池	発掘	H14.2.25	H14.3.29	485	亀島 東則	堺市南高田電線共同線整備	H13・14年度事業
01063	遺跡外	池田市空港1丁目	試掘	H14.2.27	H14.2.27	8	奥 和之	軌守伏安大寺校移転	遊歩・遺物なし
01064	森木遊歩	吹田市円山町	確認	H14.2.28	H14.3.1	2	奥 和之	総合施設吹田真原線歩道 設置工事	
01065	尊延寺遊歩	枚方市尊延寺6丁目	確認	H14.3.13	H14.3.13	3	宮崎 聖史	一般国道307号歩道 設置工事	
01066	友井東遊歩	八尾市新築町4丁目	立会	H14.3.28	H14.3.28	30	竹嶋 二郎	藤原川護城下水道柏原八尾等管 幹線(第1工区)下水道整備	
01067	大仏池遊歩	大阪狭山市東池尻5丁目	立会	H13.4.12	H13.4.13	50	榎本 哲 井野 貴子	藤原川護城下水道柏原八尾等管 幹線(第1工区)下水道整備	
01068	上小原遊歩	東大阪市小倉江3丁目	立会	H13.6.21	H13.6.21	2	奥 和之	近畿大学加下知サイト センター建設	
01069	平尾遊歩	高槻市平地234-1	発掘	H13.8.2	H13.8.2	20	榎本 哲	府立泉南高校エレベーター棟 建設	
01070	遺跡外	東大阪市中浦地区	試掘	H13.9.11	H13.9.11	16	小林 義孝	府営築地第2住宅建設	遊歩・遺物なし
01071	狭野遊歩、辻子井遊歩	東大阪市石切町1丁目	立会	H13.11.26 H14.1.16	H13.11.26 H14.1.17	30	小林 義孝 横田 明	菟畑川護城下水道柏原河内中央 幹線(第3工区)下水道整備	
01072	高野遊歩	泉南市新家	確認	H13.10.9	H13.10.10	48	榎本 哲	農用地総合整備事業	
01073	帆留寺城跡	貝塚市大川	確認	H13.10.15	H13.10.23	60	榎本 哲	農用地総合整備事業	
01074	平田遊歩、藤野岡遊歩	貝塚市平田	確認	H13.12.17	H14.3.29	16	藤澤 真哉	府営たみ池等整備事業(池 地区)	

第4表 平成13年度調査箇所一覧(2)

しんやまた
葦屋北遺跡 (01001)

- (1) 四條崎市大字砂、葦屋地内 (2) 60㎡
 (3) 平成13年4月2日～6月6日
 (4) 門真葦屋川直送幹線下水道管渠築造工事 (5) 宮崎 泰史

讃良郡条里(葦屋北)遺跡は、四條崎市大字砂・葦屋に所在し、岡部川によって形成された自然堤防上とその後背湿地に立地する弥生時代から中世にいたる遺跡である。遺跡の一部は、葦屋川から四條崎市にかけて広がる讃良郡条里遺跡に重複する(第2図)。今回の調査地は、想定される葦屋北遺跡の北西域に位置する。(第3図)。

＜概要＞

層位は大きく、14層に分けられる(第4図)。13層は4世紀から6世紀後半の遺構面にあたり、上面で幅7m以上、深さ約1.2mの溝11と土坑4を検出している。

溝11の埋土は6つに大別される。層中に含まれていた土器から、1層は6世紀前半～後半、2層は5世紀末から6世紀前半、3層～5層上位は5世紀後半、5層下位は4世紀に比定される。

＜溝11出土遺物＞

溝11の1層から、須恵器、土師器、U字形板状土製品、えぶり・たたり・横型杓子等の木製品、砥石、鉄鎌・直刃鎌、馬・猪・貝(タニシ・シジミ)・桃核等の動植物遺存体。2層から、須恵器、土師器、移動式かまど、U字形板状土製品、砥石、磨石、土製紡錘車、猪牙、鹿角製品、滑石製白玉・双孔円板、ガラス玉、管玉、鉄製釣針、椀形鍛冶滓、土玉、琴柱・鞘・有孔棒状・刻み入り木製品・ナスビ形鎌・横槍・木錘、赤色顔料、卜骨、骨角製品、犬・鹿・猪・馬・鯛・貝等の動物遺存体、彫し桃核やウリ・ヒョウタン。3層から、須恵器、土師器、移動式かまど、琴柱・輪鏝・建築部材・有頭状木製品、滑石製白玉・双孔円板、

ガラス玉、砥石、製塩土器・陶質土器、鉄製曲刀子、馬・犬・猪・鮫等の動物遺存体、桃核やウリ・ヒョウタン。4層から、須恵器、土師器、滑石製白玉、製塩土器、ヒョウタン。5層下位から、弥生後期甕、庄内式土器、布留系甕・高坏、鹿角製柄、鉄鎌等、多種多様な遺物が豊富に出土している。なお、第5図の(7・8)は1層、(5・6・10・12・14・18)は2層、(1～4・15・19・22)は3層、(16)は4層、(9・11・13)は2～3層、(20)は3～4層、(21)は5層下位より出土した。また、(17)は第2次試掘調査(B地区)で検出された土坑1より大量に出土した製塩土器である。

＜木製輪鏝について＞

いずれもカシの板材を削り抜いて製作した輪鏝で、鏝A(第6図の上)は高さ20.6cm、幅15.65cmをはかる。鏝B(第6図の下)は柄部を欠き、残存高は13.3cmをはかる。鏝Aに比べて形態的に洗練されており、整形も粗い。材質は鏝Aと同じくカシ(アカガシ亜属)で、木取りは柘目である。

＜まとめ＞

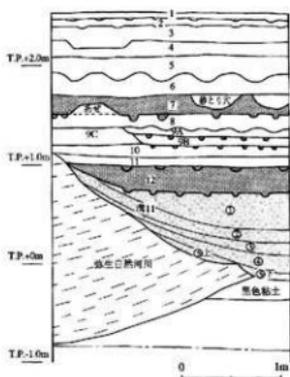
周辺の調査では、5～6世紀にかけて、馬骨・馬歯、製塩土器が多く検出されている。さらに、朝鮮半島からもたらされた韓式系土器などが伴うことから、朝鮮半島からの渡来集団が馬の飼育や牧の経営に関与していたことが考えられている。なかでも、葦屋北遺跡の立地は、古墳時代には河内湖の岸辺にあたることから、交易や牧場に関連した重要な施設が置かれていた可能性がある。



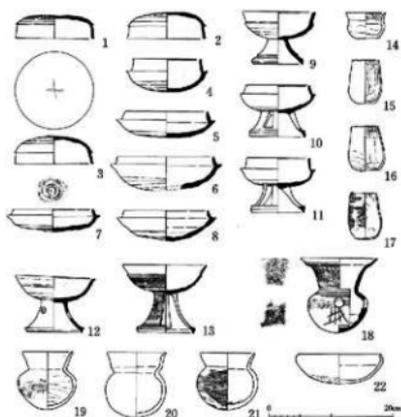
第2図 周辺の遺跡 (1/20,000)



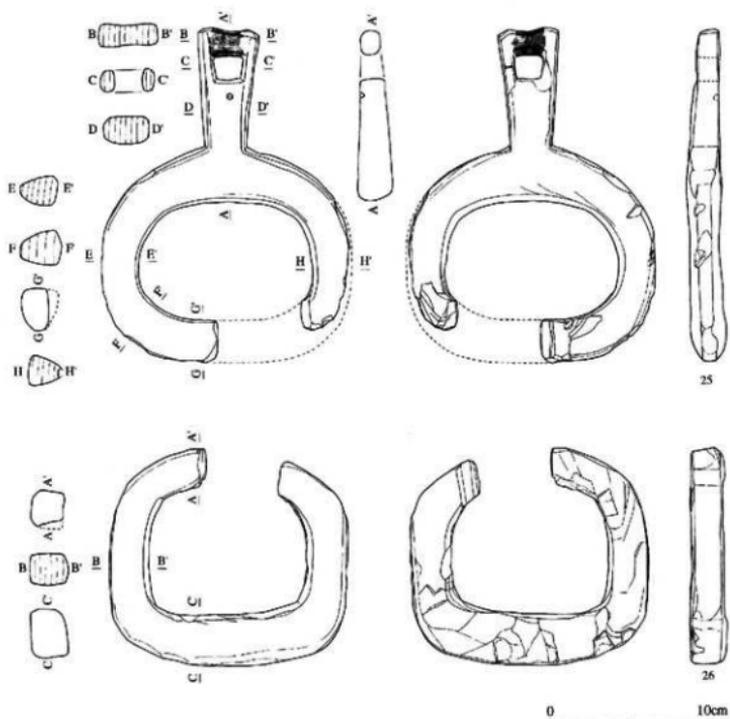
第3図 調査区位置図 (1/6,000)



第4図 H地区北壁の基本層序模式図



第5図 H地区溝11及びE地区土坑1出土土器



第6図 H地区溝11出土木製輪軸

木の本遺跡 (その2) (01004)

- (1) 八尾市空港1丁目 (2) 1,316㎡
(3) 平成13年3月6日～9月14日
(4) 中部広域防災拠点整備事業 (5) 横田 明

大阪府は八尾市空港1丁目一帯で中部広域防災拠点整備事業を進めている。ここは木の本遺跡の範囲内にあたり、弥生時代前期、中期、古墳時代、古代、中世など、広い時期の様々な遺構が発見されている。周囲の田井中遺跡、志紀遺跡などと有機的な関連性が指摘されており、遺跡の密集地帯を形成している。

平成12年度には防災倉庫建設部分について、発掘調査を実施した。その結果、弥生時代前期集落の縁辺部分にあたり、多くの遺構、遺物を検出した。平成13年度は、防災倉庫の防火水槽部分、および進入路部分について発掘調査を実施した。

基本層序

第1層 旧の耕作土層である。層厚は20cm程度で、途切れながらも調査区全域に広がっている。

第2～4層 オリーブ色～暗オリーブ色シルトを主体とする層で、層厚20～40cmである。近世以降の耕作に伴うものと思われる。

第5層 黄橙色粗砂層である。調査区の北側を中心に分布しており、比較的北東部分で厚い。

第6層 褐灰色粘質土や暗黄灰色粘土層を主体とする。層厚10～30cmで、酸化鉄の含浸がある。

第7層 暗オリーブ色砂が主体の層で、調査区南側を中心に幅広く分布している。

第8層 大きく上下2層に分けられる。上層は酸化鉄の浸透が激しく、下層は有機質を含んでいる。

第9層 黒色粘土層である。弥生土器や須恵器を含む。断続的に続く層で、特に西側では極めてうすくなっている。

1区、2区

平成12年度調査区の西北側で、防災倉庫への進

入路用地にあたる。土置き場の確保、里道の保全などのため、北側と南側とに分割して調査した。

1区は地表面から1mくらいまで攪乱を受けていた。5層、7層からは若干遺物が出土したが、最終面では小さな溝状遺構が検出されたのみである。

3区

平成12年度調査区の西側、防火水槽の設置予定区にあたる。地表面から1mまでは機械力で除去し、それ以下は人力で除去した。遺構面は3面確認できた。

1面 9層上面の遺構群で、東西方向の溝が主体である。1002-S Dは東西方向の溝で、幅2～3.2m、深さ20～40cmである。埋土は砂質土が主体である。浅い溝であるが、溝の底には遺物が放棄されたような形で検出された。遺物は土師器、須恵器など土器の他に、馬銚も出土している。

2面 溝と土坑を主体とする遺構群である。1004-S Dは北東から南西向きの溝で、幅1.2～2.2m、深さ10cmである。また1012-S Kは、東西60cm、南北60cm、深さ40cmの土坑である。底部から小型丸底壺が出土した。

3面 土坑・溝と自然流路を主体とする遺構群である。1014-S Kは南北方向の溝状遺構で、幅90cm、深さ20cmである。また1016-S Kは調査区南西にある細長い土坑である。東西2.4m、南北1.8mで、深さは25cmである。

4区

防災倉庫東側の調査区で、防火水槽設置の予定区である。落ち込みと溝を主体にする遺構群である。性格のはっきりした遺構はないが、いくつかの土器の集積がみられた。



第7図 馬銚出土状況(1)



第8図 馬銚出土状況(2)

べに たいけ やま あり
紅茸山南遺跡 (01008)

- (1) 高槻市安満北の町 (2) 720m
(3) 平成13年7月2日～9月14日
(4) 府営ため池等整備事業「安満新池地区」 (5) 井西 貴子

はじめに

紅茸山南遺跡は平成12年度の試掘調査によって新規に発見された遺跡である。調査は平成12、13年度にわたって実施された。平成12年度の調査では、弥生時代から古墳時代、中世の遺構・遺物が検出された。今年度調査では、丘陵から派生する谷部（自然流路）が検出され、遺構の時期は中世である。

立地

高槻市域は北摂山脈より発する芥川、松尾川によって三分される。当遺跡は成合盆地を流れる松尾川が、北摂山地の一部である安満山西麓と高槻丘陵東縁部の紅茸山の間に南北に流れ出た西側に位置する。調査区の標高は遺構面でT. P. +17.6 m、北から南に地形は下がっている。

周辺には、安満扇状地の末端に弥生時代の環濠集落・拠点集落として有名な安満遺跡が、調査区北側には安満宮山古墳が存在する。

基本層序

- 第1層 ため池へドロ埋土。層厚20cm。
第2層 10GY6 / 1緑灰色シルト層（やや粘質）耕土。層厚10～30cm。近世から近代の遺物包含層。
第3層 5GY3 / 1暗オリーブ灰色土。中世遺物包含層。上面・下面ともに遺構面。
第4層 5Y5 / 4オリーブ灰色シルト層。層厚10～20cm。古墳時代後期の遺物包含層。上面・下面ともに遺構面。
地山層 礫層及び砂礫層。上面は遺構面。
(平成12年度調査も含めた基本層序である。)

遺構と遺物

調査区全体で中世の遺構・遺物が検出された。遺構は、土坑・ピット・自然流路などである。建物は、2間×3間の掘立柱建物1棟検出された。

調査区北端で検出された自然流路は、幅3～4m、深さ約80cmで、13世紀後半に人為的に埋め戻されている。上面には耕土が堆積しており、調査区周辺の耕作は14世紀以降に開発されたものと考えられる。



第9図 自然流路



第10図 掘立柱建物



第11図 出土遺物

たのうあた
田能北遺跡 (01011)

- (1) 高槻市大字田能 (2) 2,950㎡
(3) 平成13年7月1日～12月14日
(4) 府営農地還元資源利活用事業「裡田地区」 (5) 奥 和之

1. はじめに

本遺跡は、大阪府の北東部、北摂山地の穏やかな山々に囲まれた標高350m前後の小規模な山間盆地(田能盆地)に位置する。遺跡は、基本的に盆地北側の田能川左岸の丘陵縁辺部に立地し、今回の調査区のほとんどは、東の山塊から西の田能川に向かって下る同一丘陵上にある。調査は、B～G地区までの6調査区に分けて実施した。

2. 調査の概要

今回の調査で検出した主な遺構は、建物3棟、建物群、土坑、溝などである。

建物群は、C地区の北西端の丘陵縁辺部付近で検出した。建物群は、小溝群と柱穴群によって構成される。東の斜面側に幅0.1mから0.2m、深さ0.05m前後の小溝が、内側にやや弧を描くように9本以上切りあって存在し、その内部に96個以上の柱穴が確認された。柱穴の並びから、何棟かの建物が存在すると思われるが、それ以降に遺構面が削平を受けているため何棟の建物が存在するかは不明である。ただ東の斜面側に存在する小溝が、雨を防ぐ溝とすれば、9棟以上の建物が存在することになろう。建物群の時期は、13世紀のものと推定される。

建物1は、E地区の丘陵南側の縁辺部付近で検出した。建物は、梁間1間(2.5m)以上、桁行5間(約12.2m)と推定されるが、南側から南西側の約2分の1が調査区外にあるため不明な点が多い。しかし、桁行及び梁間に同方向に並ぶ柱穴があり、2回以上の建て替えがあったものと考えられる。建物の時期は、平安時代後期(11世紀)と推定される。

建物2は、I地区で検出した。梁間1間(約2.6m)、桁行1間(2.6m)以上と推定されるが、西側のほとんどが調査区外であるため不明な点が多い。時期は、平安時代中期(10世紀)頃と推定される。

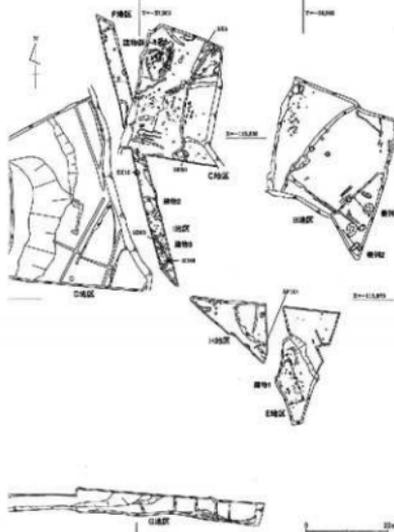
建物3は、I地区の南東側で検出した。梁間1間(2.2m)以上、桁行2間(4.8m)以上と推定され、柱穴は楕円形ないしは長方形に近い形を呈している。建物の時期は、柱穴内から全く出土しなかったため不明な点が多いが、建物に対する柱穴の方向が揃っていないこと、周辺から出土した

遺物の中に、平安時代初期頃(9世紀)の遺物が出土していることから、その頃のものと考えている。

3. まとめ

今年度の調査で田能地区の開発は、平安時代初期(9世紀)まで遡れるものと考えている。また以前の調査においても少量ながらその時代の遺物が出土している。このことから小規模であるが集落が平安時代初期から、田能盆地内の丘陵縁辺部に点在していたものと推定される。

本格的に集落が営まれ出したのは、中世に入ってからで、盆地内の発掘調査、遺跡確認調査の結果及び地形から当時の集落の大半は、盆地の周囲の丘陵縁辺部に沿ってほぼ帯状に存在していたものと想定され、大部分は周知の遺跡範囲外の現集落とほぼ重なるものと推定される。



第12図 調査区平面図

府中遺跡他 (01012)

- (1) 和泉市肥子町1丁目・府中町1丁目 (2) 27㎡
 (3) 平成13年7月9日
 (4) 都市計画道路和泉中央線建設 (5) 亀島 重則

工事に先だって実施した確認・試掘調査である。国道26号線に交差する角地とJ R阪和線との交差点地点に近い東側の用地である。前者の地点(肥子町1丁目)で1箇所、後者の地点(府中町1丁目)で5箇所、計6箇所調査坑を設けた。

板原遺跡に設定した調査坑(調査区A、肥子町1丁目)では、地表下約1.9mまで盛土層(厚さ0.79m)を除いて6層の堆積土を確認した。第5b層上面で掘立柱穴1基を検出した。柱穴に伴う遺物はなく、調査坑内出土の遺物も乏しいため、各層の時期を特定することはできなかった。しかし、近接する国道26号線建設時の調査成果と照合すると、両地点の土層に対応関係がみられる。このことから、第4層上面より各土層面ごとに対比すれば、数枚の中世遺構面が検出される可能性がある。

府中1丁目の調査地は、調査区Aから東へ約400m離れた用地内で、5箇所の試掘坑を設けた(調査区B～F)。

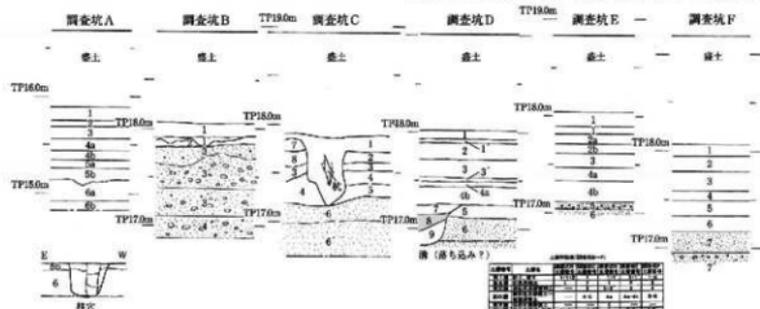
堆積土は旧耕土層以下6層に区分される。

第I層-旧耕土・床土

第II層-灰色系粘土 層厚12～20cm



第13図 調査地位位置図



第14図 調査坑断面図 (1/50)

第III層-黄灰色系砂質粘土 層厚10～23cm
 第IV層-黄灰色系砂質～粘質土 層厚23～35cm
 第V層-灰白色微砂質土 層厚14cm
 第VI層-灰白色系砂、砂礫 酸化部分で浅黄色、還元部分で青灰色を呈する、層厚95cm以上
 調査区Dで、第5層(第V層)上面(T. P17.24m)で溝(幅1.3m以上)を検出した。深さ42cm以上を測り、北に延びる。埋土から遺物は出土していない。ベース土の第5層灰白色微砂質土の下層には砂層が厚く堆積する。

他の調査区では、遺構は検出されなかった。全体に第V層以下が地点により高低差はあるものの、広く厚く堆積しているところから、埋没河川が存在が予想される。時期については、堆積層から遺物がないため、不明であるが、土層断面から流路の中心や方向などが推測できる。調査区Bでは粗砂礫が顕著に認められる。しかも砂礫層の検出面が一番高いことから、用地内が最も流れの中心にあった時期にうずたかく堆積した結果と考えられる(調査区Eの砂礫層上面高との比高差88cm)。さらに砂礫層の確認された調査区E・Fの位置から、流路は用地内をおよそ南から北に向かって流れていたと考えられる。また、調査区C・Dでも下層は砂層を主体としており、用地内全域が河川による流水堆積によって形成された区域であったといえる。しかし、砂礫による堆積後、緩やかな流れによって微砂質土が堆積するようになってから、溝の掘削が行われており、住空間あるいは耕地などの生産区として取り込まれたと考えられる。

岸和田城跡 (00066・01014)

- (1) 岸和田市岸城町 (2) 300㎡
(3) 平成13年3月1日～7月11日
(4) 府立岸和田高校建替 (5) 西川 寿勝

岸和田城は大阪湾に面した海浜部に位置し、信長・秀吉による根柢・雑賀衆攻めの要衝となり、小出秀政によって近世城郭としての形が整えられた。今回は平成7年の一次調査につき、東の二ノ丸中樞を調査した。調査区は「和泉国岸和田城絵図」(正保二年・1645)による筆頭家老中家の屋敷地にあたり、廃藩置県に至るまで中家屋敷地だったことが知られる。しかし、府立高校建設による擾乱などにより、中家屋敷に関する良好な遺構は発見できなかった。

遺構は16世紀末の遺物を含む整地土層にみつかった。この整地土層は岸和田城城郭整備に伴う内堀などの掘削土によると考える(1595年頃以降)。整地土層の直上から焼土・炭などを充填した焼土遺構・南北溝が見つかった。これらの遺構埋土には焼けた壁土も含まれ、遺構上面からは焼けた瓦などもみついている。付近に焼失した建物があったのだろう。

焼土を伴った南北溝を壊して、調査区南端で東西大溝が見つかった。大溝は浅く、流水による堆積物はない。大溝の底から鍛造関連の廃棄物が捨てられた鍛造土坑が見つかった。鍛造土坑は南北3.2m、東西約6.2mを測る。土坑は多量の炭に混じって、鉄カス・鞆羽口・陶磁器・瓦などが含まれる。炭層は堆積状況や土砂の混じる間層がないことから、一時期に廃棄されたと考える。鉄カスは直径10cm程度の碗形洋が大半で、総量40kgを超える。鞆羽口は10本以上ある。陶磁器には唐津焼碗・皿、丹波焼播鉢、備前焼播鉢、瀬戸焼丸皿などがある。これらの陶磁器は1610～20年頃のものである。

鍛造土坑の西端から見つかった焼土遺構は遺構の底が赤く焼け、炭の破片が散乱する。大溝の西側で鉄製品がつくれ、すぐ東に炭などが捨てられたのだろう。製品を確定づける遺物はなかったものの、製作地は城郭中樞部であること、鍛造作業が大規模で一時的だったことなどから、緊急を要するものであると推測できる。そして、17世紀初頭に大阪で大きな戦乱があったことを考えあわせると、武器・武具を作っていた可能性を指摘できる。詳細は『岸和田城跡』2002 府埋文報告2001-5を参照されたい。



第15図 遺構検出状況と再建岸和田城天守閣



第16図 鍛造土坑発見鉄カス・鞆羽口



第17図 鍛造土坑発見陶磁器

余部遺跡 (01015)

- (1) 美原町北余部 (2) 3,000㎡
(3) 平成13年7月23日～平成14年3月22日
(4) 府営美原北余部住宅建替 (5) 西川 寿勝

余部遺跡周辺は鎌倉時代を中心に栄えた河内鑄物師の本拠地とされる。これまでに日置荘遺跡や真福寺遺跡などが調査され、鉄鍋・鉄釜などを鑄造した遺構や遺物がみつまっている。

今回調査は鎌倉時代前期を中心にした区画溝、その内部に密集する建物群、井戸、鑄造関連遺構などがみつかった。区画溝は三つの調査区にまたがり南北約30m、東西約50mの方形である。溝の形状は不定形で浅く、幅は広いところで約5m、深さ約0.2mを測る。

方形区画内の北東隅では建物が密集して発見され、その東端から2基の井戸が並んでみつかった。井戸埋土には瓦器・土師器・中国製磁器などが含まれ、廃絶年代は北側の井戸3-2が鎌倉時代初期、南側の井戸3-1が鎌倉時代前期～中期である。

さらにその南から炭・鑄型・炉壁などが含まれる廃棄土坑がみつかった。発見された鑄型の形状と鉄カスなどから鉄鍋、あるいは鉄釜を作っていたと考える。また、鍛造による鉄素材、鑄造時に飛

び散った鉄滴などがみつかり、方形区画内で鉄製品を活発に鑄造していたことがわかった。

その一方、青銅製品の破片が井戸3-1からみつかった。この破片は一辺約2.5cm、厚さ約0.4cmを測る。緩やかに湾曲し、外側に二重の突帯がある。突帯の形状から梵鐘上部の屈曲部、あるいは鋤口の外縁部のような。鑄造欠陥品かスクラップ片と考える。

これまで、河内鑄物師については文献や製品の銘から鑄銅の鑄物師としてよく知られていた。しかし、発掘されていた遺構の大半は鑄鉄関連で、鑄銅遺構は明確でなかった。今回、鑄鉄と鑄銅に関連する発見が同時にあり、河内鑄物師の鋼鉄兼業についての実態を知る糸口になると考える。詳細については「余部遺跡」Ⅱ、2003刊行（府埋文報告2002-1）を参照されたい。



第18図 方形区画北東建物群



第20図 鑄造関連遺構堆積状況



第19図 井戸3-1 (奥)・井戸3-2 (手前)



第21図 鉄素材・青銅製品片・鉄鍋片

久宝寺遺跡 (01016)

- (1) 八尾市西久宝寺町 (2) 60m
 (3) 平成13年6月2日～7月24日
 (4) 寝屋川南部地下河川久宝寺竪坑建設 (5) 小林 義孝

はじめに 久宝寺遺跡内に建設される寝屋川南部地下放水路久宝寺竪坑の発掘調査は、1991年に実施し、すでにその概要を報告している(小林義孝・西川寿勝『久宝寺遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会 1992年)。今回は久宝寺竪坑の管理棟建設に伴って隣接地の発掘調査を実施した。

基本的層序 ①盛土、②近世耕作土、③平安時代整地層、④弥生時代後期末から古墳時代初頭の遺物包含層、⑤弥生時代後期河川堆積層、⑥縄文時代後期以降に形成された黒色粘土と淡緑色シルトの互層、に大きく分別される。個別の土層についての知見は前回と変化はない。

検出された遺構と遺物 久宝寺立坑建設工事において、遺憾ながら今回の調査区上部に堆積する上層の一部が破壊されており、近世、中世と古代の遺構面はすでに遺存していなかった。

弥生時代後期河川堆積層(⑤)の上面からは、弥生時代後期末から古墳時代初頭の周溝墓の一部が検出された。周溝墓3-1の周溝の延長部分である。調査区の北西端で周溝の内側の法面を長さ2m分検出された。深さは約90cmを測る。周溝の堆積状況は、前回の調査の知見と変わらない。内側から完形の土器とともに土砂が流入しており、周溝の中央部には掘り直しの痕跡も認められた。

前回の調査に際し、周溝墓3-1の周溝とされる遺構が、周溝であるのか、単なる溝であるのか、

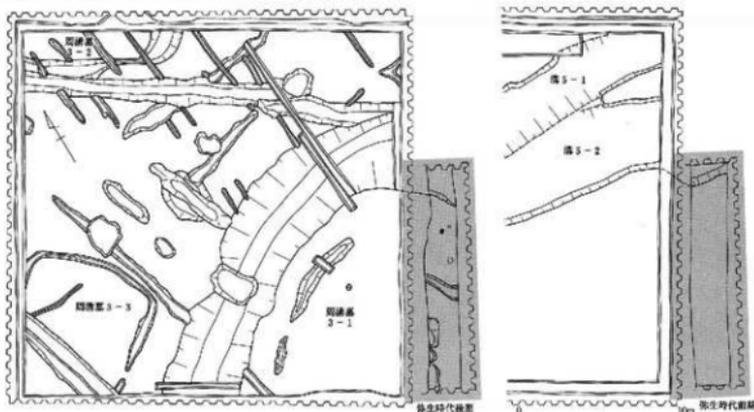
議論が分かれるところであったが、今回の調査での検出状況からは、この溝が弧を描いて掘削されていることが一層明らかになり、前者の可能性が高まったものとする。

弥生時代後期河川堆積層(⑤)の底面からは弥生時代前期に比定される粘土の小ブロックを大量に含む土を埋土とする溝の一部が検出された。前回の調査で溝5-2と呼称したもので、その南側の肩部と法面が約2m分確認できた。

縄文時代後期以降の形成された黒色粘土と淡緑色シルトの互層(⑥)のうち、上から2層目の黒色粘土層からは縄文時代後期(北白川上層式)の土器片が出土した。前回の調査では土留施設の強度の問題から、調査区全面の調査は断念したが、今回の調査区においては全面で縄文土器が確認され、その分布が一定の広がりをもつことが把握できた。

まとめ 今回の調査は小面積であり、前回の調査を補足する性格のものであったが、次のような成果をあげることができた。

- (1) 周溝墓3-1の周溝の延長部分が検出され、溝の形状からこの遺構が周溝である可能性が一層高まった。
- (2) 弥生時代前期の溝の延長部分を検出し、
- (3) 縄文時代後期土器の分布範囲の広がりを確認することができた。



第22図 1991年度調査区と今回の調査区(アミ部分)

西大井遺跡 (01018)

- (1) 藤井寺市西大井1丁目407-1 (2) 24㎡
(3) 平成13年9月3日～9月6日
(4) 大和川下流東部流域下水道事業大井処理場水処理施設建設(第二期) (5) 大樂 康宏

1. はじめに

西大井遺跡は大和川下流東部流域下水道事業大井下水処理場の各施設建設に先立ち昭和54年から平成12年まで、20次にわたる調査が実施されてきた。

西大井遺跡周辺は現地地形において条里型地割りをよく残しており平安時代から明治時代に至る水田面が幾層にも重なり検出されている。また、旧石器ユニットや縄紋時代や弥生時代の遺構をはじめ、古墳時代前期の方形周溝墓や竪穴住居跡、おびただしい数の土壙墓群も検出されている。

2. 調査の概要

平成13年度の調査は、平成10年度から12年度にかけて調査を実施した水処理施設(第二期)建設に伴う事前調査のうち、平成12年度に調査を行った東側拡張区の調査である。これは本体工事詳細設計の結果、当初範囲より東側に3m拡張が必要となった部分の調査で、平成12年度の調査で実施できなかった工事用進入路部分にあたる。西接する平成10・11年度の調査では江戸時代後期の島高、同中期の水田、平安時代の水田面3面、弥生時代～古墳時代前期の遺構面を検出し、また地山面で国府型ナイフ形石器を含む旧石器のブロックが検出されている。

今回は前回までの調査で確認された各遺構面の

うち、主要各遺構面の遺構の拡がりを確認することを主眼とした(遺構面の呼称は平成10～12年度の調査に準じる)。

平安時代の水田面を2面(第4遺構面・第5遺構面)検出した。いずれも現行条里に重なる坪境畦畔を伴う条里型水田で、小畦畔や足跡もよく遺存している。

第4遺構面は全面に人・牛の足跡が全面で検出された。畦畔は確認されなかった。これまでの調査成果から、12世紀後半の水田面と考えられる。

第5遺構面は畦畔が2条検出され水口も確認された。平成11年度調査で検出された畦畔の延長である。これまでの調査成果から、10世紀後半の水田面と考えられる。

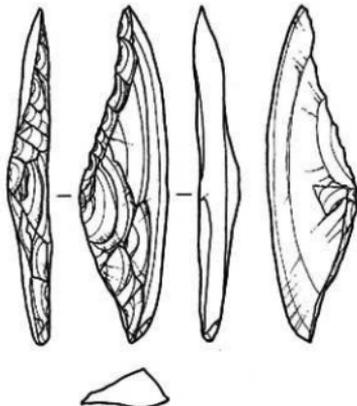
地山面(第7遺構面)は11年度調査で旧石器ブロックを検出した面と同一面である。若干の剥片が出土したが集中地点は見出せなかった。



第24図 第4遺構面



第25図 第5遺構面



第23図 H.11ブロック3出土国府型ナイフ形石器

福井遺跡 (01019)

- (1) 茨木市西豊原町地内 (2) 2,814㎡
(3) 平成13年7月31日～平成14年1月31日
(4) 府営福井住宅建替 (5) 宮崎 泰史

福井遺跡は、大阪府茨木市のほぼ中央に位置し、弥生時代後期から平安時代を中心とする遺跡である。府営福井住宅建替工事に伴う2000年10月の試掘調査によって新たに発見された。今回の調査は、府営福井住宅建て替え第1期工事に伴う事前調査である。

調査は土置き場の確保のため、調査区を便宜的にA～C区に分けて行っている。その結果、弥生時代後期から鎌倉時代にかけての遺構・遺物が検出された。

< A区 の調査 >

調査によって、6世紀末～7世紀初め頃の掘立柱建物跡5棟以上・竪穴住居跡3軒・溝、平安時代の掘立柱建物跡1棟・柱穴・溝、そして鎌倉時代の谷などが検出された(第27図)。

(1) 掘立柱建物跡

掘立柱建物1は、東西2間×南北3間の総柱で、東側はさらに東に広がる可能性があり、倉庫と考えられる。掘立柱建物2は、東西2間×南北4間である。掘立柱建物3は、東西2間×南北4間で、竪穴住居跡1と同時期に存在していたと考えられる。掘立柱建物4は、東西2間×南北3間で、他の掘立柱建物跡に比べて柱の掘形が小さいのが特徴である。出土遺物から、平安時代と考えられる。掘立柱建物5は、東西2間×南北2間で、南側は奈良時代から平安時代にかけての自然河川によって削られていた。

(2) 竪穴住居跡

竪穴住居1は、調査区のほぼ中央で検出された。

4本柱をもつ径4.5×5.0mの方形住居で、削平を受けたためか、カマド等の施設は検出することが出来なかった。竪穴住居2は、調査区の南側で検出された。径4.5×4.7mの方形住居で、南西部を後世の擾乱によって破壊されていたが、竪穴住居1同様1本柱であったと考えられる。竪穴住居3は、他の遺構によって破壊され、西側の大半は調査区外にあり、径は一辺4.2m以上の方形住居である。

(3) 溝

溝1と溝2は住居を区画する溝で、特に溝2は竪穴住居1を囲むように存在することから、排水機能をも兼ねていると考えられた。また、溝2は掘立柱建物1と掘立柱建物3を意識して設けられていることから、竪穴住居1を含めてセットになる可能性も考えられる。

< B区 の調査 >

弥生時代後期の溝2条、弥生時代後期から鎌倉時代にかけての自然河川1条、古墳時代後期から鎌倉時代にかけての自然河川1条、ピット等を検出した。

< C区 の調査 >

B地区から続く弥生時代後期の溝2条、弥生時代後期から鎌倉時代にかけての自然河川1条、ピット等を検出している。



第26図 調査位置図 (1/20,000)



第27図 A地区遺構全景

大和川今池遺跡 (01020)

- (1) 松原市天美西7丁目 (2) 5,920㎡
 (3) 平成13年9月17日～平成14年3月29日
 (4) 大和川下流域下水道今池処理場水処理施設建設 (5) 阿部 幸一

この遺跡は、松原市天美から堺市常盤町、大阪市住吉区にかけて所在する。遺跡は昭和52年にその存在が確認され、その後、40回以上の発掘調査が重ねられ、古墳時代前期から中世までの複合遺跡とされている。また、難波宮朱雀大路から南に延びる難波大道跡が確認された遺跡としても知られている。

今回は旧今池を挟んだ南北両側、及び池の東部で、南から北へ突堤状に突き出た堤部分を対象に調査を進めている。ここでは調査の終了した南調査区について説明する。

南調査区は、今池の南側と溜池の中に突堤状に突き出た堤部分の2区画からなる。1区は南北約52m、東西約36mの方形で、面積約1,870㎡であるが、塵芥処分場に使われていた時期があり、調査区の約1/4が攪乱されていた。2区(堤部分)は幅約18m、長さ約80mで、900㎡である。調査では、主に中近世頃の遺構を検出した。また、今池の土手下層の状況を確認し、堤の築造方法を観察した。

中世の遺構としては鎌倉時代頃と推定される今池の堤のほか、溝、ピット、土坑。近世の遺構と

しては野井戸、耕作溝などを検出した。

溝1は、幅20～50cmの小溝で遺物は出土しなかったが、今池より古い。土坑、ピットは各1基検出した。遺物は出土していないが、埋土(黒色土)から中世の遺構と考えられている。

井戸は3基検出した。直径1m前後、深さ約1mの素掘り井戸で、湧水層には達していない。人為的に埋められ、遺物は出土していないが、近世以降の野井戸と考えられる。

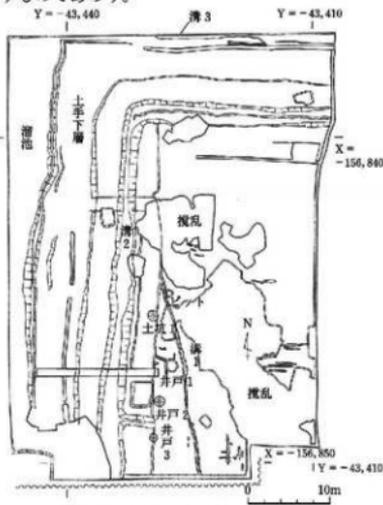
溝2は今池の土手に沿って掘られた導水路で、土手の裾を削って掘られている。近世陶磁器の小片や土師器、瓦器の小片が出土している。

南側の2区でも堤下で溝、土坑、ピットを検出している。遺物は出土していないが、埋土から中世のものと考えている。

堤の盛土は灰褐色土(中世の包含層)と地山の黄灰色粘土の攪拌土で、瓦器や土師器の小片を含む。水漏れや土砂の滑り、崩落を防止する工夫や盛土を突き固めたような痕跡は確認できない。流水圧を受けない皿池の故であろう。堤下の地山(黄灰色粘土層)上面では多数の踏込み跡とみられる不定型な窪みが観察された。堤築造以前の状況を示すものであろう。



第28図 周辺の遺跡と調査区位置図



第29図 南調査区1区の遺構

吉井遺跡 (01021)

- (1) 岸和田市吉井町3丁目地内 (2) 3,528mf
(3) 平成13年9月3日～平成14年3月29日
(4) 府営岸和田吉井住宅建替 (5) 大樂 康宏・藤澤 眞依

1. はじめに

吉井遺跡は、岸和田市吉井町・磯之上町にまたがる広範囲な遺跡である。これまで、府営岸和田春木第2期住宅建て替え(平成3年・(財)大阪府埋蔵文化財協会)、都市計画道路忠岡吉井線(平成7年度・岸和田市教育委員会)、府営岸和田吉井第4期高層住宅建て替え(平成11・12年度・本府教育委員会)に伴う調査が、岸和田市教育委員会による小規模な調査が数カ所で行われている。

今回は府営岸和田吉井第5期高層住宅建て替えに伴う発掘調査である。調査地は吉井遺跡の北東端に位置し忠岡町境に接する。平成11・12年度調査区の北側に当たる。

2. 調査の概要

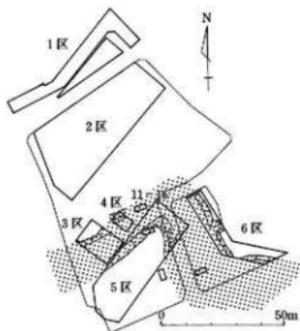
13年度の調査は住宅棟・機械室棟・駐車場・外周道路にあたる部分6ヶ所に調査区を設定した。

・調査地北半の調査区(1区・2区)

地表面下数十cmで地山となる。旧耕土以下、中世から旧府営住宅建設前までの耕作面で、鋤溝・畝溝を検出した。調査地付近は条里地割りをよく残しており、調査地北東側の市町境は坪境である。今回調査では現行条里方向の畝溝を一部で検出したがその時期は明確ではない。この他にもピット・土坑などを検出したが時期・性格ともに不明である。

・調査地南半の調査区(3区・4区・5区・6区)

調査地内で蛇行する大規模な流路を検出した。この流路は調査地の南東端付近に東から流入し、北へ直角に振った後すぐに直角に振り、西へ流れる。これより西側の一部は以前の調査(平成11年度・B調査区、平成12年度・第4調査区)で検出している。流路の幅は15～20m、深さは2.5m以上である。流路の最深部付近の砂層から布留期の甕・壺、砥石などがまとめて出土している。6区ではこの流路に流入するように掘られた古墳時代中期の溝を検出している。中層の粘質土層は奈良時代の須恵器・土師器が出土する滞水堆積層で、今回調査に先立つ確認調査で「天平宝字三年四月十六日主守六人部・・・」と記された木簡が出土したトレンチ(平成11年度・16トレンチ)はこの流路上に設定されたものである。今回の調査では記年銘木簡に関連した遺物は出土しなかった。



第30図 調査区配置図及び流路

3. まとめ

今回の調査では中世の遺構はほとんど検出されず、平成11・12年度の調査で検出された12世紀～14世紀の獨立柱建物を含む遺構群はこの区域には拡がらないことが確認された。

流路は古墳時代前期以前の自然流路は、布留期の土器のまとまった出土から付近に該期の遺跡の存在が想定させる。また、奈良時代にはかなり埋没しているものの流路の部分的な改修・開削を行っている機能させているようである。条里地割施行との関係が注目される。



第31図 5区・流路

府営住宅試掘調査(01022・01023・01024・01025・01057)

- (1) 岸和田市瀬原町・大町・下池田町、泉佐野市東羽倉崎町、貝塚市橋本・森、富田林市北大伴、泉佐野市佐野台町
 (2) 78㎡、54㎡、84㎡、30㎡、28㎡ (3) 平成13年7月25日～8月2日、平成13年8月6日～8月9日、平成13年8月20日～8月23日、平成13年9月12日～9月13日、平成14年1月28日～1月31日 (4) 府営住宅建替 (5) 杉本清美

建築都市部住宅整備課の依頼により、泉州・南河内地区の府営住宅建て替えに先立つ埋蔵文化財の試掘調査を行った。調査は、調査地内にトレンチを設定し、表土・盛土等は重機で除去した後、人力によって遺構・遺物の確認につとめた。調査成果は、写真撮影と土層断面の模式図を作成し記録した。調査の結果、新規発見遺跡が2箇所、遺跡の範囲拡大が2箇所確認された。

・久米田第2住宅

府営住宅内の空き地等に5箇所のトレンチを設定した。トレンチ内から近世の陶磁器片や瓦器碗、土師質土器片などの中世の遺物、弥生時代中期の甕口縁部などを検出した。調査の結果、遺構・遺物が検出されたため、住宅建て替え前に発掘調査が必要であると判断した。当地は周知の遺跡範囲外であったが、当該市教育委員会と協議し、近接する大町遺跡の範囲を拡大することとした。

・久米田第3住宅

府営住宅内の空き地等に3箇所のトレンチを設定した。調査では、いずれのトレンチからも顕著な遺構・遺物は発見されなかった。

・久米田第4住宅

府営住宅内の空き地等に5箇所のトレンチを設定した。トレンチ内から土師質土器片、瓦器碗片などの中世の遺物や弥生時代中期の甕、把手などを検出した。調査の結果、遺構・遺物が検出されたため、住宅建て替え前に発掘調査が必要であると判断した。当地は周知の遺跡範囲外であったが、当該市教育委員会と協議し、近接する下池田遺跡の範囲を拡大することとした。

・羽倉崎住宅

府営住宅内の空き地等に8箇所のトレンチを設定した。トレンチ内から平安時代頃の柱穴と遺物を検出したほか、瓦器碗片、土師質土器片、瓦など中世の遺物も見られた。調査の結果、遺構・遺物が検出されたため、住宅建て替え前に発掘調査が必要であると判断した。当地は周知の遺跡範囲外であったため当該市教育委員会と協議し、安松田遺跡とした。

・貝塚橋本住宅

府営住宅内の空き地等に6箇所のトレンチを設定した。トレンチ内から瓦器碗片、土師質土器片、

瓦など中世の遺物を検出した。調査の結果、遺構・遺物が検出されたため、住宅建て替え前に発掘調査が必要であると判断した。当地は周知の遺跡範囲外であったため当該市教育委員会と協議し、橋本野岸ノ下遺跡とした。

・貝塚森住宅

府営住宅内の空き地等に8箇所のトレンチを設定した。調査では、いずれのトレンチからも顕著な遺構・遺物は発見されなかった。

・富田林北大伴住宅

府営住宅内の空き地等に5箇所のトレンチを設定した。調査では、いずれのトレンチからも顕著な遺構・遺物は発見されなかった。

・佐野台住宅

府営住宅内の空き地等に6箇所のトレンチを設定した。調査では、いずれのトレンチからも顕著な遺構・遺物は発見されなかった。



第32図 大町遺跡・下池田遺跡位置図



第33図 安松田遺跡位置図



第34図 橋本野岸ノ下遺跡位置図

加納・平石古墳群 (01026)

- (1) 河南町加納・平石地内 (2) 10,150㎡
(3) 平成13年8月21日～平成14年3月29日
(4) 中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」 (5) 今村 道雄・橋本 哲

加納・平石古墳群は、葛城山系岩橋山を水源とする平石川溪谷右岸段丘上に営まれている。本年度の調査は、加納地区より平石地区におよぶ東西300mの間を調査対象とし、4箇所(1)の調査区と24箇所(2)のトレンチを設定して実施した。西の第1調査区では加納1・2・5・6号墳の調査を継続した。第2調査区では尾根の先端部で横穴式石室玄室部分の残骸を検出し、加納第7号墳と名づけた。その南のトレンチでは谷の流跡が検出され、流路の埋没する中世以前の土層で、一部に割り込みの痕跡をとどめるアカマツの半截された自然木が出土した。平成11年度の試掘調査で新たに発見されたシヨツカ古墳では7箇所(3)にトレンチを設定し、残存状態・規模・内容の把握に努めた。古墳の南・南東の周辺部に設定したトレンチでは、飛鳥～奈良時代の建物や不定形土坑、奈良時代を主体とする土器類を多量に出土する流跡を検出した。

シヨツカ古墳の西200mには6世紀後半から築かれる加納古墳群があり、東300m～500mには終末期古墳として著名なアカハゲ古墳やツカマリ古墳がある。一方、背後の山を越えた北側は、春日向山古墳(「用明陵」)・山田高塚古墳(「推古陵」)・上城古墳(「聖徳太子墓」)・須賀古墳群等で知られる「王陵の谷」磯長谷である。

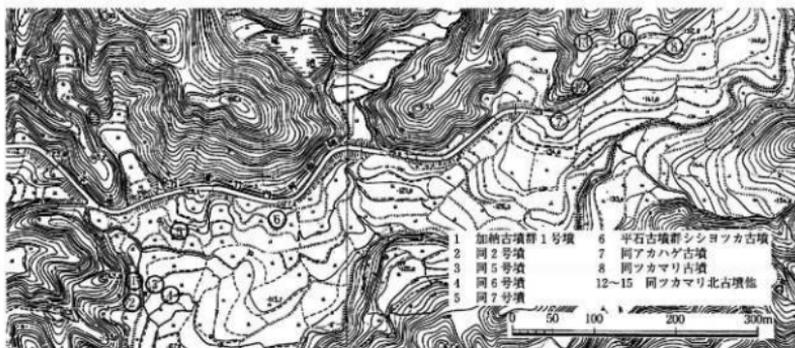
古墳は北方の標高239mを最高点とする山頂から派生する尾根の南端を掘り割りで区切って築かれている。墳丘は中世以降の開発で一部改変されているが、保存状態は良好で、水田の石垣、里道などは、墳丘の段築、平坦面、貼石などを反映している。周濠を含む古墳の規模は、東西60m、南北53m。墳丘は東西34.2m、南北25.3m、高さ5mを測る3段築成で、表面に貼石を施す。上段は東西15.3m、南北13.6m、中段は東西24.9m、南北18.9m。各段のテラスは基本的に東西が南北より長い。これは西及び南に傾斜する土地に古墳が築かれたためである。周濠は墳丘を巡り、北側の濠底には平らな石が敷かれている。南側周濠外には東西60m、幅5m、高さ2.2mのテラス状施設が付く。その裾では大きい石が検出され、これは現在も石垣に利用されているひときわ大きい石に連なる南辺裾の石列となる。墳丘は、3～5cmの厚さで土を水平に薄く敷き均して叩き締める版築

状の盛土で築かれ、硬く締まっている。

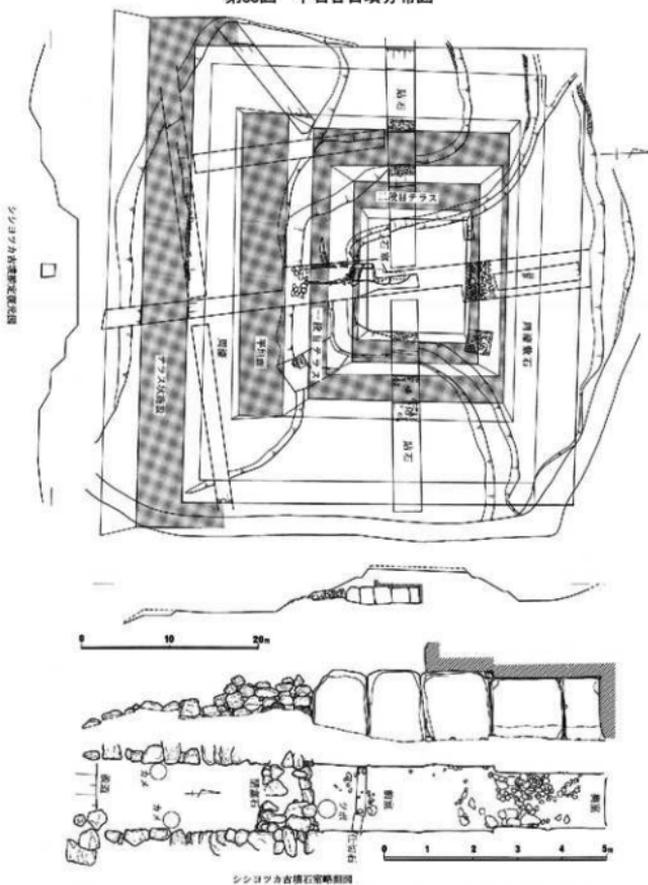
埋葬施設は、花崗岩の切石積横穴式石室で、奥室、前室、羨道からなり、終末期古墳に特有の横穴式石室あるいは石棺式石室と呼ばれる形状で、全長11.6mである。石室の主軸はN-2°50' - Wで真南に開く。奥室は長さ2.5m、幅1.1～1.2m、高さ1.2m、前室は長さ4m、幅1.4m、高さ1.35～1.4m。奥室は奥壁1枚、左右両側壁それぞれ2枚、天井石1枚。前室は左右両側壁各3枚、天井石は1枚だけ残っている。奥室入り口の左右両袖には扉石を受ける浅い割り込みがある。奥室の壁や天井石の間には漆喰が残る。奥室床面は後世に荒らされ、両側壁底面以下まで掘り込まれている。その掘り込みの攪乱土から瓦器片が出土した。前室の入り口近くには二上山産凝灰岩を加工した幅20cm、高さ42cm以上の直方体の仕切石が2枚横に並べ立てられていた。羨道は長さ約5m、幅約1.5～1.6mで、側壁には平石谷に散在する自然石が用いられている。その側壁は南の入り口に向かって徐々に低くなり、1段目墳丘斜面に達する。閉塞石の外側の羨道部は側壁と同じような大きさの石で築いた後、その上からさらに土で埋めている。奥室と前室の床面から、大小の礫と一部加工した流紋岩溶結凝灰岩(通称榛原石)の板石、その他凝灰岩の小破片が出土している。敷石や扉石の残欠であろうか。

羨道の入り口近くでは羨道を埋める際に置いたと思われる2点の須臾器の蓋が左右に並んで出土し、その内の1点には高坏が4点横に重ねて納められていた。また閉塞石内側と仕切石との間の礫敷きでは、須臾器四耳壺が盗掘の際に落下した閉塞石の一部に押し潰された状態で検出された。その同じ礫敷きには挂甲小札が環状に集中しており、一部は礫に鏽着していた。これらの遺物は盗掘によってもほとんど乱されることなく、副葬の際の位置関係を保ったと考えられる。

その他に、閉塞石内側から前室にかけて漆塗龍棺、亀甲網紫文銀象眼円頭太刀柄頭、鉄製挂甲、金銅装馬具及び飾り金具、銀製帯金具、金糸、ガラス玉などが、中世の瓦器や土師器と混在しながら、石室内堆積土より散乱状態で出土した。古墳の築造年代は6世紀後半を考えた。



第35図 平石谷古墳分布図



第36図 シシヨツカ古墳平面・断面図（現地説明会資料に拠る）



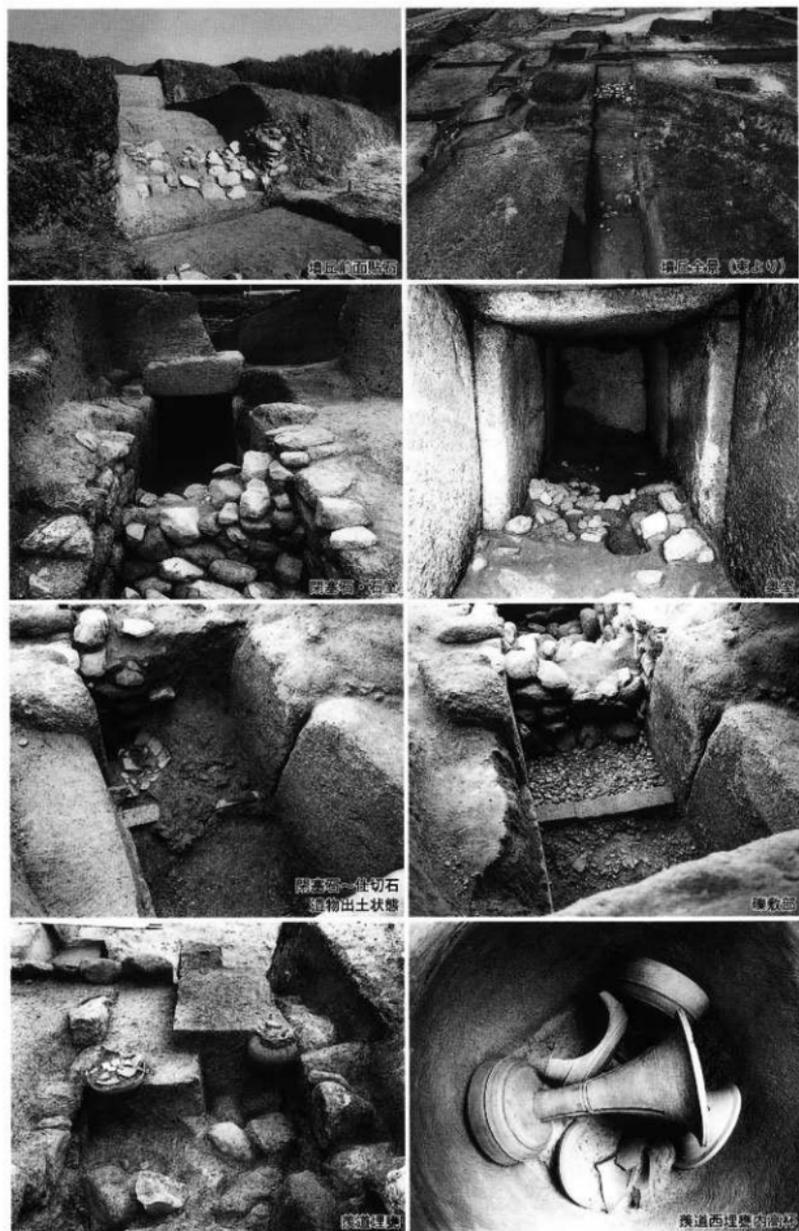
第37図 シシヨツカ古墳全景（南より）



第38図 墳丘第1段前面貼石・羨道・石室



第39図 墳丘北側濠底敷石・段築貼石



第40図 シシヨツカ古墳遺構・遺物検出状況

堺環濠都市遺跡 (01027)

- (1) 堺市車之町東1・2丁、櫛屋町東1・2丁地先 (2) 240㎡
 (3) 平成13年9月20日～25日
 (4) 府道堺大和高田線電線共同溝整備工事 (5) 亀島 重則

工事予定地(延長400m)の4地点について行った確認調査である。府道の北側歩道(車之町東、A・B)と南側歩道(櫛屋町東、C・D)に各々2箇所に調査坑を設けた。

土層は表層(歩道基盤層、アスファルト舗装・碎石)以下、大きく4層に区分される。

第Ⅰ層-大戦後の整地土、道路敷設の整地土

第Ⅱ層-大戦時の焼土他

第Ⅲ層-戦中以前の建物の基礎部。

第Ⅳ層-灰黄色・灰白色褐色灰色系砂質土～粘質土を主体とする層。中世～近世に及ぶ。複数の遺構面(生活面)が確認できる。層厚約1.5mを測る焼土(層)・炭(層)が顕著にみられる。このうち、最上部に位置する焼土層は元和期の大火によるものと考えられる。

第Ⅳ層-灰白色系砂 層厚40cm以上。一部にやや汚れた印象をもつことやラミナ

などが見られないことから、純粋な自然層ではなく、2次的に客土された可能性がある。調査坑Dの最深部では砂層の下に焼土・炭を含む砂質土・粘質土がみられる。

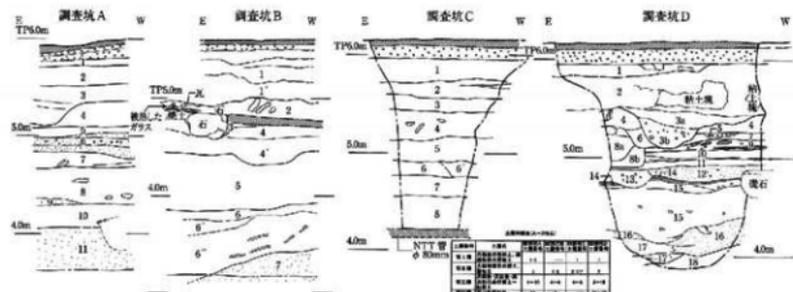
確認調査は深度約2.4mまで行ったが、遺構・遺物包含層はさらに下層へ及ぶことが確実である。

今回の調査地は環濠都市の中央部のやや北寄りに位置している。中央を縦断する大道筋に沿って東寄りに平坦地が延びている。この高台部から東の錦南宗寺線付近に向かって低く傾斜していて、さらに東へ緩く下降している。今までの調査成果によれば、元和以前の焼土層が検出されるのは錦南宗寺線より西の高台部に限られてくるという。このことから中世、まず高台部を中心とした町形成が行われた後、徐々に低地へ居住区域を拡大していったといえる。最東部のC坑の第Ⅳ層砂層の上層に見られる盛土造成の様子と最西部の大道筋に隣接するD坑の堆積土の多さ・密度の高さを比べれば、この推測を裏付ける。今回の調査地はまさしく環濠都市の中心部分に当たる。

調査の結果、各調査坑から遺構・遺物が検出されたこと、さらに本遺跡で調査対象の基準に置いている元和期以前の土層が工事計画の深度内に当たることから、事前に本調査が必要との回答を事業者にいった。



第41図 調査地位置図



第42図 調査坑断面図 (1/50)

亀井遺跡 (01030)

- (1) 八尾市南亀井町3丁目 (2) 109㎡
(3) 平成13年10月22日～12月28日
(4) 寝屋川流域下水道事業 (5) 藤田 道子

亀井遺跡は大阪市東部と八尾市にまたがる弥生時代から近世に至る複合遺跡、特に弥生時代の拠点集落として著名である。当遺跡は1970年代から本格的な調査が開始され、主に、近畿自動車道、大阪府長吉ポンプ場において大規模な調査がくり返された。これまでの調査成果により、何重にも掘り込まれた溝により区画された墓域、生産域、居住域など内部構造が判明している。

今回の調査区は長吉ポンプ場の西側、中央環状線に面した出入り口付近に設定された直径11.7mの下水道管渠到達円形堅坑である。調査区付近はこれまでの調査で弥生時代中期の遺構に加え、前期の遺構が検出されており、前期段階の集落の周辺に、該当する地域と推定されている。またポンプ場西側の近畿道の調査では、前期から中期の方形周溝墓が検出されており、墓域と居住域が重なっている区域と推定される。

調査成果 層厚さ約2.5mの盛土層を除去すると近世平野川の旧流路、井戸3基を検出した。古代から中世の耕作上層を除去するとT.P.+6.5mから層厚さ約1mの弥生時代遺物包含層を検出する。この包含層は弥生時代前期からほぼ中期後半に至る遺物が大量に含まれており、周辺が長期間に渡り集落地として利用されてきたを物語っている。断面観察では包含層中に何面かの遺構面が在ったと思われるが、最終的には主な検出遺構面は2面である。

上面の遺構面では東西方向に流路をとる溝を検出した。溝からは中期後半の遺物が出た。遺物包含層を除去したT.P.+5.5m前後の青灰色シルト上面で下面の遺構面を検出した。この最終遺構面では、異なる流路方向をとり、切り合っている4条の溝を検出した。このうち溝401からは前期の土器のみ出土した。また青灰色シルト上面で出土した土器は、前期段階のもので、既往の調査成果の通り、調査区周辺は亀井遺跡の中で最も早く開発されたエリアと推定される。

溝の他、調査区中央付近に木棺を検出した。木棺を取めた墓坑は長さ2.3m、幅0.7～1m、前期の溝401が埋没したあと掘り込まれている。木棺本体は上部から押しつぶされた状態で、原形をとどめていない。検出深さ約20cmであるが、本来の

掘り込み面はもっと上層であったとおもわれる。調査区北側で検出したくの字型に屈曲する溝を周溝とする方形周溝墓の主体部の可能性が高い。この溝の上層からは中期の土器が多量に集中して出土している。特筆すべき遺物として器高63.4cm、最大腹径53cmの完形の大型装飾蓋が出土している。方形周溝墓の供獻土器と思われる。

亀井遺跡弥生時代の墓域としては、南の城山(長原)遺跡が著名である。ここでは40基を越す弥生時代中期の方形周溝墓が検出されており、亀井遺跡の奥津城としての様相をみせている。今回の調査で検出された墓は、城山遺跡のように大規模に築かれる墓域とは違い、居住域の周辺に存在していたと思われる。そしてこの墓は、きわめて居住域に近い場所に構築されたためかまたたくまに次世代の生活者により破壊された状況を示している。これまでの調査でも居住域の周辺に方形周溝墓が検出されているが、本来一つの墓域を形成していたのか、単独で存在していたのか、あるいは墓域、居住域としての土地利用は時間差があったのか詳細な分析は今後の課題である。



第43図 木棺検出状況

あ と べ
跡部遺跡 (01032)

- (1) 八尾市跡部北の町 (2) 215㎡
 (3) 平成13年10月9日～平成14年3月29日
 (4) 都市計画道路久宝寺太田線建設 (5) 小林 義孝

はじめに 跡部遺跡は、旧大和川の一部をなす長瀬川、平野川などによって形成された自然堤防とその周囲の氾濫源に立地している。近接する久宝寺遺跡と一帯となり広大な面積の推定範囲では、弥生時代から近世に至るさまざまな遺構・遺物が検出されている。

旧国鉄電車停車場を南北に貫いている府道久宝寺太田線は、停車場跡地の再開発に当たって改良されることとなった。当該地は停車場跡地の南側に当たる。

基本層序 調査は、現地表面 (T. P. +9.2m) から T. P. +4.4m まで、概ね 4.8m の深さで実施し、26層にのぼる土層の堆積状況を確認した。基本的な層序は、現代の盛土層 (第1層) 中近世の土層 (第1～第7層)、奈良・平安時代の土層 (第8層)、古墳時代以前の土層 (第9～第25層) である。中近世の土層は、すべて耕作土であり、中世のある時期に開発されて以降、順次かさ上げされながら継続して耕作されてきたものである。ここに盛土が施され、工場用地等として活用されたのは近年のことである。奈良・平安時代の土層である第8層以下はすべて自然堆積層であり、安定した人間の活動の痕跡を把握することはできなかった。

検出された遺構と遺物 第1遺構面 (第7層上面) では幅約70cm、深さ約25cmを測る南北方向の溝を確認した。中世に帰属するものである。第2遺構面 (第8層上面) では、調査区北東隅で幅約2.1m、深さ約40cmを測り、弧を描いて走る溝などを検出した。また遺構面には人間や鳥類が歩行した足跡なども検出しており、平安時代はじめ頃には当該地一帯が人間の活動の場となったことを示している。第3遺構面 (第16層上面) は、遺構は検出されなかったが安定した面が形成されていた。第4遺構面 (第19・第20層上面) は弥生時代後期に比定される。3条の自然流路を検出した。

出土した遺物として顕著なものはほとんどなく、わずかに堆積層や遺構の時期を概ね決定できる程度のものである。

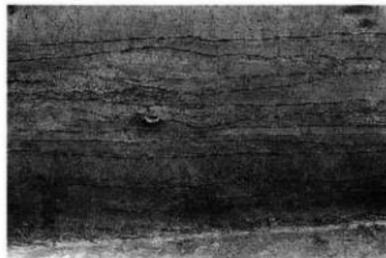
まとめ 跡部遺跡の東西約1.4km、南北約0.5～1.0kmの推定範囲の中で遺構の粗密が認められる。遺跡の中心は東部地域であり、西部地域は比較的遺構密度が低い。その中でも当該地付近は谷状地形にあたり、周辺に比べて標高も低く、長期にわたって小規模な湿地が存在したと推定される。ここが生活の場に組み込まれたのは平安時代以降のことである。



第44図 調査区位置図



第45図 平安時代の溝



第46図 土層堆積状況 (第14層～第24層)

とうき とうき 陶器南遺跡 (01033)

- (1) 堺市辻之内地 (2) 40㎡
 (3) 平成13年10月29日～11月12日
 (4) 府営ほ場整備事業「陶器北地区」 (5) 亀島 重則

はじめに

事業予定地内での埋蔵文化財の有無を確認するために試掘調査を実施した。すでに調査を実施した陶器南遺跡が広がる丘陵の西方先端部に位置し、陶器南遺跡の北を西する陶器川と南辺の谷から流れる小河川が合流する地域である。

調査地は、事業区域の中央を東から西に延びる丘陵尾根部を中心として、その北側陶器川流域部(A)、丘陵尾根部(B)、南側小河川流域部(C)に分かれる。A区域5箇所(No1～5)、B区域3箇所(No6～8)、C区域2箇所(No9～10)、合計10箇所の試掘坑を設けた。

調査結果

試掘坑No1-事業区域北東部に位置する。第3層から多くの須恵器片が出土した(陶邑編年Ⅰ型式)。炭・焼土を少量含む。下部層は礫混じり砂～砂質土で、上部よりは少ないが須恵器片が出土する。須恵器窯の灰原に起源する可能性が高い。近在の北側丘陵斜面に窯があったものか。

試掘坑No6-事業区域中央部に位置する。第6・7層は遺物包含層、第7層下面では、土坑・小穴が検出された。遺構面以下は地山と考えられる。

試掘坑No8-事業区域西部(丘陵尾根部)。第8層上面で幅14～19cmの小溝を1条検出した。

試掘坑No9-事業区域中央部に位置する。第4層上面で畦畔を検出した。

試掘坑No10-事業区域東南部に位置する。上下2枚の遺構面を確認した。上では、第8層上面で溝・土坑が検出され、下では、第11層上面で、須



第47図 調査地位図

恵器窯の操業により灰原層が形成される。灰原層からは須恵器(陶邑編年Ⅰ型式)がコンテナ約10箱分出土した。

まとめ

各試掘坑からは遺構・遺物が検出された。遺物(須恵器)はコンテナ14箱分の量が出土した。

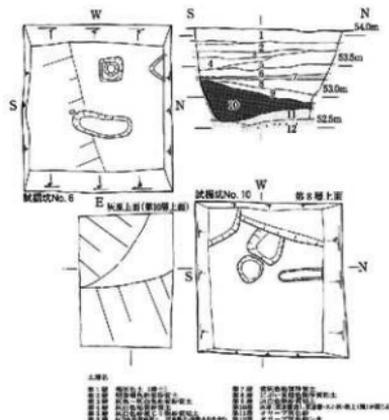
①陶器川流域部—No1で須恵器が多量出土したことから、窯跡が近在すると推測される。

中央段丘部寄りの調査区(No3・1・2・5)では流れ堆積の様相を呈し、流路とみられる。しかし、他の調査区(No4)では、地山層に広範囲に見られる砂礫層の上には粘質土が堆積しており、砂礫堆積後、一帯が安定してくる。

②丘陵尾根部—2箇所で見出された遺構(No6・8)した。地山では砂層が見られるもの、安定した地盤を提供していたとみられる。

③小河川流域部—No9で水田畦畔検出時期不明、瓦器片含むことから年代の上限、中世)。地山上に流れ堆積層がみられる。No10で須恵器窯の灰原を検出した。

以上の所見から事業予定地内で掘削等を伴う地域については調査が必要と判断され、事業者へその旨回答した。なお、今回の事業予定区域については、陶器南遺跡の拡大として扱うことになった。



第48図 調査坑No.6・No.10

雁屋遺跡 (01038)

- (1) 四條駅市雁屋北町 (2) 200㎡
 (3) 平成13年11月26日～平成14年2月15日
 (4) 府立四條駅高等学校水道管移設 (5) 井西 貴子

基本層序

第1層 高等学校建設時の盛土層。攪乱層。上面T.P.6.7m。層厚約1m。

第2層 旧耕作土・床土。上面T.P.6.4m。耕作土は灰色土層を基本とし、床土は白灰色・黄白灰色土を呈する。旧耕土は、明治期学校創立以前の耕作土である。

第3層 中世耕作土層。上面T.P.6.1～6.15m。上層は10Y6/2、下層は10Y5/2オリーブ灰色粘質土である。基本的には水平堆積であり、鉄分の沈着も見られる。瓦器・土師器・須恵器の細片が出土した。部分的ではあるが、上面に灰色細砂混土が堆積する。この土層は洪水堆積に起因する土である。

第4層 砂層 自然河川の最上層の堆積である。出土遺物から奈良時代以降の堆積と考えられる。上面T.P.5.9m。

第5層 弥生時代包含層1 上面がT.P.5.7m。5Y3/1オリーブ黒色粘土層。上面には足跡が検出されたが、土層は水平堆積ではなく、(調査区東側で層厚約15cmを測るが、西側では薄くなり7区で消える。)河川の影響を受けた土層堆積で、岸部であろう。弥生時代の壺の体部片、高坏脚部等が出土した。

第6層 弥生時代包含層2 上面がT.P.5.6m。

5Y3/1オリーブ黒色砂混土層。層厚約20cm。

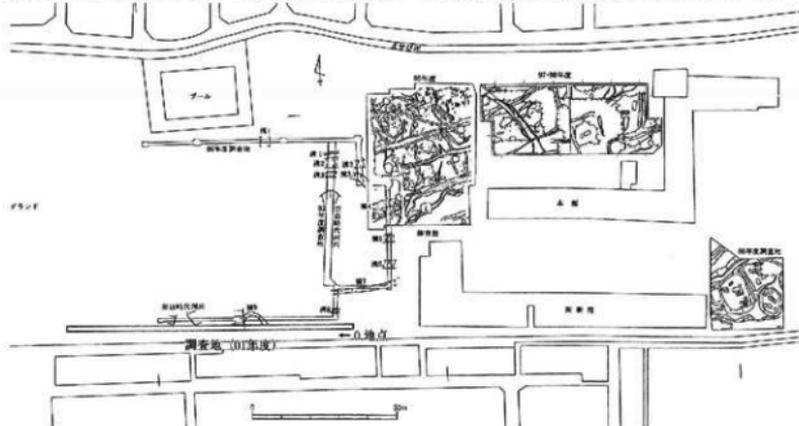
遺物の出土量は少ないが、弥生時代の壺体部片が出土した。時期の詳細は不明である。

第7層 地山層。T.P.5.4m。暗緑灰色砂混土層。砂礫層 第5～7層が確認できる地区以外では、第3層以下全体に堆積する。土質はシルト～砂・礫層である。出土遺物は多く、弥生土器・土師器(古墳時代)・須恵器(古墳時代)が出土した。

遺構と遺物

遺構面は、弥生時代の包含層(第6層)上面を第1遺構面、第6層下層、第7層上面を第2遺構面とした。第6・7層が確認できるのは6区と13・14区の間であり、7～12区と15区より西側は同位層として河川堆積上面を第1遺構面として認識した。第2面に相当する遺構面の広がりは認識できなかった。図示した遺構面は第1面であり、15～19区で検出されている遺構は、自然河川の中の流路の肩である。部分的にシルト層や粘質土層が堆積しており、流れの位置が変わっているものと思われる。大筋での自然河川の方向は北東から南西方向と考えられる。

また、第6～13区については中世の耕作土上面でも精査を行い遺構検出に努めたが、畦畔などの遺構は確認されなかった。なお、地区名は、0地点より西方向に1mごとに番号を付けている。



第49図 四條駅高校内調査地点略図

佐備川B地点遺跡 (01040)

- (1) 富田林市竜泉 (2) 34㎡
 (3) 平成13年12月4日
 (4) 府道甘南備川向線歩道設置工事 (5) 西口 陽一

調査に至る経緯

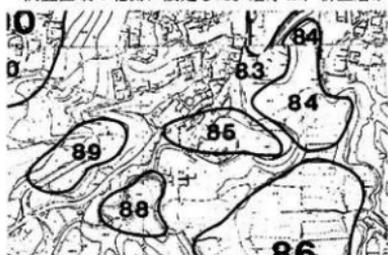
調査地は、標高100m、佐備川に面した段丘上にある。調査地は、佐備川B地点遺跡内である。

今回、府道甘南備川向線の歩道設置工事が実施されることになり、事前に確認調査を実施したものである。佐備川B地点遺跡は、『大阪府文化財地名表』によると、弥生～中世の集落跡である。工事の内容は、歩道のない現況幅員5.5mの道路に、幅員2.5mの歩道を両側に設置するものであり、重力式よう壁工事及び道路排水工事にあたり、約1.4m程度の掘削作業が生じるものである。調査は、調査区域に2箇所のトレンチを設定し、土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しつつ、機械及び人力で掘り下げ、実施した。

調査結果

No.1 トレンチ

調査区域の北側に設定した。層序は、耕土層が



第50図 佐備川B地点遺跡 (85)



第51図 調査区位置図 (1/2,500)

30cmある。その下がすぐに地山層であった。地山層は灰茶褐色細砂層で、70cm掘削したが、遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。調査区のほとんども、かつての府道建設時に行われた水道管工事で攪乱されてしまっていた。

No.2 トレンチ

南側に設定した。層序は、厚さ15cmのアスファルトの下に厚さ30cmのコンクリートがあり、その下に厚さ30cmの真砂土があった。その下は、すぐに地山層であった。地山層は、厚さ20cmの濃茶色粘土が混じる暗灰色粗砂層で、流木も混じていた。その下の層は、厚さ20cmの暗灰緑色粘土層で非常に固かった。遺物も出土せず、遺構も検出されなかった。

まとめ

今回の確認調査実施地区については、遺構・遺物は検出されなかった。歩道設置工事に関して、発掘調査の必要はない旨、事業者へ回答した。



第52図 No.2 トレンチ (北から)

平尾遺跡 (01041)

- (1) 美原町平尾地内 (2) 96㎡
 (3) 平成13年12月10日～12月26日
 (4) 主要地方道堺富田林線(舟渡バイパス)新設工事 (5) 亀島 重則

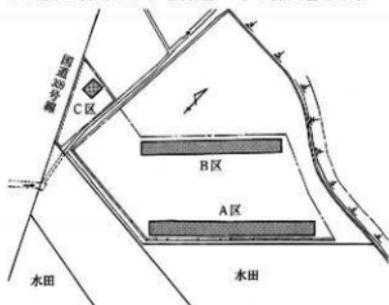
事業予定地内の埋蔵文化財の包蔵状況を確認するために調査を実施した。国道309号線の東に取りつく区域で、3箇所(A・B・C区)行った。標高52.3～52.6m。

各所から遺構・遺物が検出された。表土層以下、地山まで6層が堆積する。A区で3枚、B区で4枚、C区で2枚、遺構面を検出した。A区3面では、中央部付近から東へ比高差約50cmで下降する。ほぼ全域で小穴・柱穴や土坑が検出された。B区3面では東部で、鋤溝と畦畔1条を検出した。畦畔は幅50～70cmで調査区東端部を南北方向に走る。東端でこれに直交する東西方向の段状の落ち込みがあり、畦畔の可能性ある。鋤溝群は南北畦畔の西に並ぶ。幅10～25cmで東西方向を採る。4面では、大溝・柱穴・小穴などが全域で検出された。大溝は幅1.35～1.5mで、東端部を東西に横断する。深さ約0.5m。遺物は土師器・須恵器・瓦器・青磁・白磁・瓦等、コンテナ1箱分出土した。



第53図 調査地位置図

これらのことから、第2層上面から地山面で遺構がほぼ全面に広がるのが判明した。地山面では、東西に走る大溝とその南に柱穴・土坑などが検出され、溝に限られた建物群の存在が予想される。自然地形は北東方向に緩く傾斜する。大溝出土土器に示される8世紀後半代を含む時期と考えられる。第3～4層での2～3面の遺構群は、一部南北方向をとるものの、東西を基本とする鋤溝が走る。全体に調査区北東に下降する自然傾斜面を水平に造成し、開田したとみられる。出土土器から中世、鎌倉時代以降と考える。美原町域では現在残る地条線から条里型地割の施行が推定されている。しかし、調査地付近では、直線状に走る地条に乏しく、むしろ自然地形に倣った条線が見られる。今回検出した鋤溝から、鎌倉時代以降の正方位地割の存在を裏付ける。以上の所見から、本予定地内で工事を実施するにあたっては、調査が必要と判断され、事業者への旨回答した。



第54図 トレンチ位置図



第55図 B区4面大溝、A・B区遺構図(1/200)

おのきと
男里遺跡 (01042)

- (1) 泉南市男里 (2) 580m
 (3) 平成13年10月15日～平成13年12月17日 (4) 府営ため池等整備事業泉南Ⅱ期地区(双子上池)
 (5) 泉南市教育委員会 河田 泰之 大阪府教育委員会 藤澤 眞依

男里遺跡のほぼ中央に位置する双子池の堤体改修工事に伴う調査で、平成7年度より継続的に行われている。このうち双子下池における堤体改修工事は平成11年度で終了した。平成12年度は双子上池において確認調査を行い、遺構を確認し、多量の遺物を出土した。今年度の調査は、双子上池西側堤体の上池と下池を画する道路から南へ83mの区間を対象とした。

調査での基本土層は8層確認した。

- 0層 堤体盛土および池底のヘドロである。
 1層 調査区南西端のごく一部に遺存していた黒褐色シルトで、土師器の細片が極少量出土した。
 2層 調査区中央付近でみられる。褐色系のシルトや礫層からなり、流路の埋土と考えられ、土師質の細片が少量出土した。上面で柱穴を検出した。
 3層 調査区のほぼ全域にみられる。黄色～灰色系のシルトおよび礫層からなり、上面で、土坑、自然流路を検出した。遺構には、7世紀中頃から後半のもの、弥生時代後期末のものがある。層中から弥生時代中期(Ⅲ様式)の壺も出土した。
 4層 調査区中央でみられる。2層および3層を埋土とする河川のベースとなり、黄色～灰色の粗砂および礫からなる。遺物は出土していない。
 5層 調査区南側でみられる灰黄色シルトであり、上面で土坑、柱穴、自然流路を検出した。層中から突帯文土器深鉢(2)、弥生前期の壺(3)が出土した。炭化物および固まりではないが赤褐色の焼土らしきひろがりが見られ、なんらかの遺構の埋土である可能性も想定できる。
 6層 調査区南側でみられる。黄色～灰色の細砂およびシルトからなる。上面で焼土層がみられることから、遺構面と考えられ、標高10.0～9.2mとなる。突帯文土器深鉢(1)、土鍾が出土している。
 7層 地山である。今回の調査では、調査区南北両端でのみ検出した。明青灰色礫からなり、ほぼ起伏なく堆積している。上面のレベルは9.2m前後である。

縄文時代晩期から弥生時代前期の遺物の出土及び6層上面の弥生時代前期遺構面の確認は、当遺跡での初例となる。6層は滋賀Ⅳ式以降に、5層は長原式期～弥生時代前期に位置づけられる。

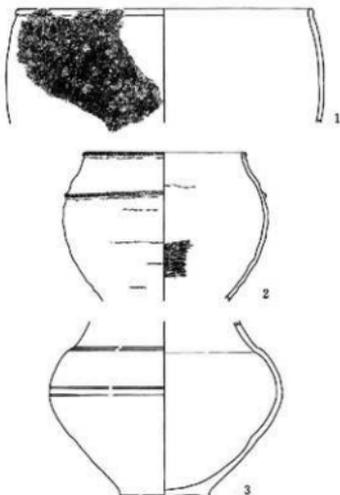
6層上面では明確な遺構を検出しなかったが、焼土層の存在から、遺構面と考えられる。

なお、6層および5層で出土した土器は、層位的な上下関係が把握でき、時期差を表すものと考えられる資料である。しかし、5層から出土した土器は、現時点では共伴遺物と理解している。

また、柱穴等の遺構や流路出土遺物から、双子池周辺に弥生時代後期後半～末、7世紀後半頃の集落が存在していたことが明らかになった。

95年度の調査区でも、柱穴等を検出していることや河道から庄内式併行期～古墳時代初頭、7世紀後半～8世紀前半頃の遺物が出土した。

これらを重ね合わせると、弥生時代後期後半から古墳時代初頭まで、7世紀後半から8世紀前半まで営まれていた集落が双子池付近に存在していたであろうことは十分に考えられる。



第56図 5・6層出土遺物(S=1/6)

わか きた
若江北遺跡 (01047)

- (1) 東大阪市若江西新町3丁目 (2) 133nf
(3) 平成14年1月8日～2月18日
(4) 寝屋川流域下水道事業 (5) 藤田 道子

若江北遺跡は東大阪市西部に位置する弥生時代から近世に至る複合遺跡である。当遺跡は1970年代終わりに始まる近畿自動車道天理吹田線に伴う調査により大規模な調査がくり返された。

これまでの調査成果では、若江北遺跡は弥生時代前期から中期後半にかけて水田址が検出されていることにより、生産域としての土地利用がされていたと考えられていた。しかし最新の発掘調査成果で最古の弥生土器を伴う住居跡が検出され、一躍脚光をあびることとなった。この他にも当遺跡では弥生時代中期末～後期初頭、後期の二つの時期に住居跡等の集落遺構が集中して発見されている。

今回の調査区は遺跡の北東部にあたる。近畿自動車道の橋脚の間に設定された直径13mの下水道管渠発達堅坑である。調査区すぐ西側の近畿道の調査では弥生時代中期末～後期初頭の掘立柱建物など集落遺構が検出されている。また東側を走る府道中央環状線の立体交差に伴う調査では弥生時代後期の平地住居が検出されている。

今回の調査ではT.P. +2.5mから-1.5mまでの間で合計10面の遺構面を検出した。1～3面は古墳時代以降の耕作面と思われる。遺物はほとんど出土しなかった。

第3面のベース層は東側は粗砂層、西側は灰黄褐色粘土である。この灰黄褐色粘土は層厚さわずかに10cmであったが、多量の弥生時代後期中頃の土器を含んでおり、この層を除去した第4面上面ではほとんどが完形品に復元できる土器を多量に発見した。第4面の東半分は南北方向に走る谷筋となっておりこの谷に流れ込むかたちで多くの土器が見つかった。谷の肩部のレベルはT.P. +1.2mである。第4面からは明瞭な遺構は検出されなかったが、先述したとおり調査区東側のトレンチから弥生時代後期中頃の周堤帯を有す平地住居が検出されており、出土した豊富な遺物から、当該時期の集落の西側への広がりが確認できたといえよう。

第4面のベース層は暗黒色シルト～暗灰色砂質土で、弥生時代後期初頭の遺物を含む。層厚さわずかに10cm前後である。さらにその下層弥生時代中期後半の遺物を含む暗灰色粘土を除去したとこ

ろで第5面を検出した。検出レベルはT.P. +1m前後である。主な検出遺構は土坑、小溝等である。調査区すぐ西側の近畿道の調査では弥生時代中期後半～後期初頭の集落遺構が検出されており、第5面の遺構群はこれに関連するものと思われる。

第5面より下層は、T.P. +1m～-1mまで2m近く流水堆積層が続く。一時期T.P. ±0m前後で土壌化した面があり、この面を第6面とした。第6面では東端に南北方向に流路をとる溝を検出した。断面U字型で、幅約1.5m、検出深さ40cmである。溝内上層からは弥生時代中期の土器が出土した。

第6面より下層は上層と異なり、流路の方向は北東～南西方向となる。以下T.P. -1mまで調査区内を同じ方向で流路が走る。第8、9面では流路肩部から弥生時代中期の木製品が出土している。今回の調査区では弥生時代前期の遺物包含層は検出しなかった。



第57図 第4面遺物出土状況



第58図 第9面木製品出土状況

おか なか しん いけ
岡中新池 (01048)

(1) 泉南市岡中 (2) 300㎡

(3) 平成14年1月9日～平成14年1月13日

(4) 府宮ため池等整備事業泉南Ⅱ期地区 (岡中新池) (5) 藤澤 眞依

泉南市の南部岡中に所在する池である。堤体および樋管の改修工事中に木樋が出土したため、泉州農と緑の総合事務所から連絡を受け、現地での立会調査を実施したものである。

樋および周辺はすでに改修済みで、コンクリートになっていたが、堤体下部の樋管は改修されて

いなかった。堤体下部幅は約30mで、樋管は幅約0.3m、長さ約4mの板材3枚で樋管本体を作り、幅0.3m長さ0.3m前後の板材で蓋をしており、これを8本継いでいた。蓋は割れにくいように管に対し木目が直交するように置き、角釘で4箇所づつ留めていた。



第59図 池内側より見た堤



第60図 樋管の継ぎ目



第61図 蓋のある状態



第62図 蓋を外した状態

天王地区遺跡確認調査 (01050)

- (1) 豊能郡能勢町天王地内 (2) 138㎡
(3) 平成13年12月18日～平成14年1月18日
(4) 中山間地域総合整備事業「天王地区」 (5) 奥 和之

1. はじめに

今回遺跡確認調査を実施した豊能郡能勢町天王地区は、大阪府の北西端部に位置し、地形的には、北摂山地内に存在する標高520m前後の山間小盆地（東西約2.6km、南北約0.1km）に立地している。その地区内を、天王川が蛇行を繰り返しながら西流している。

2. 調査の概要

調査対象地域をおおまかに東部東地区、東部西地区、西部東地区、西部西地区の4地区に分け、基本的に約2×3m、深さ0.6m前後の試掘トレンチを23箇所設置し掘削した。その結果、新たに3箇所の遺跡を確認した。

a. 東部東地区 天王地区の最も東側に位置し、その範囲内に4箇所のトレンチを設定した。

これらからは、全く遺構・遺物が検出されなかったことから、周辺には遺跡が存在しないと判断した。

b. 東部西地区 天王地区の中央から東側に位置し、その範囲内に4箇所のトレンチを設定した。

これらの中で、遺跡が存在する可能性が最も高いと判断したのは、第16トレンチのみである。地形及び周辺に設定した試掘トレンチの状況から、南側に存在する天王川の旧氾濫源と小河川に挟まれた東西約120m、南北約100mの狭い範囲内に単独で存在しているものと推定される。遺跡名は、周辺の字名から湯田遺跡とした。

c. 西部東地区 天王地区の中央から西側に位置し、その範囲内に10箇所のトレンチを設定した。

それらの中で遺跡が存在する可能性が最も高いと判断したのは、天王川に合流する小河川の東側、北方向から派生する尾根の縁辺部に設定した第11トレンチである。遺跡の範囲は、東西約100m、南北約90mと推定される。遺跡名は、周辺の字名から大道遺跡とした。

d. 西部西地区 天王地区の最も西側に位置する。その範囲内に6箇所のトレンチを設定した。これらの中で遺構・遺物を検出したのは、北方向から派生する尾根の縁辺部周辺に設定した第3・4・23トレンチである。これらから遺跡の範囲は、東西約400m、南北約100mと推定される。遺跡名は、周辺の字名から馬場ノ下遺跡とした。

3. まとめ

今回の遺跡確認調査は、当該地区で行われた初めての調査で、天坪遺跡以外に新たに3箇所の遺跡が発見された。これらは、分布状況から旧街道に沿って存在するものと推定され、水田内だけではなく、現集落内にまで範囲が及ぶものと予測される。これら3遺跡の時期は、出土遺物から中世を中心とする時期で、このことからこの地が、この時期になって開発されたことを物語っている。

今後、地区内の園場整備工事に伴う発掘調査を行うことによって、この小盆地内の遺跡の状況がさらに明らかになるであろう。



第63図 遺跡確認調査位置図

禅城寺遺跡・宇保遺跡 (01052)

- (1) 池田市宇保町 (2) 127㎡
(3) 平成14年2月5日～3月15日
(4) 都市計画道路神田池田線道路拡幅 (5) 泉本 知秀

都市計画道路神田・池田線道路拡幅工事は、南北約850m分が予定範囲である。平成9年度から毎年発掘調査を継続しており今年度は5年日になる。

道路拡幅予定地全域が遺跡で、北から禅城寺遺跡、宇保遺跡、神田北遺跡として分布図に登録されている。予定地内で立退き問題等が解決したところを毎年少しずつ発掘調査を行っている。今年度は道路の西側で禅城寺遺跡内で1ヶ所、宇保遺跡内で2ヶ所、計127㎡を発掘調査した。北からA区、B区、C区とする。

A区では現地表から約1.1mで第1遺構面となり土坑6基、溝5条を検出した。溝は暗渠と鋤溝である。土坑からは遺物は出土しなかった。埋土は茶褐色粘土であり、埋土から判断して年代は奈良時代前後に属すると考えられる。

更に20cm掘り下げると溝2条が検出された。溝の幅は50cmと2m前後で、深さは20cmから30cm前後であった。いずれも遺物は出土しなかった。埋土は黒色粘土であり、この数年の調査例から判断して弥生時代以降に属すると考えられる。

B区では深さ1.3mで東西溝1条と土坑2基が検出された。溝からは中世の遺物が出土した。

C区では深さ1.6mで溝8条と土坑3基が検出された。土坑1は西壁部で検出され径70cm、深さ55cmで埋土は灰黒色粘土で奈良時代前後に属する。土坑2は南北に長い楕円形で長径1.3m、短径55cm、深さ5cmで馬の脚の骨が出土した。鎌倉時代に属する。土坑3は東西方向に長い楕円形であった。長径2.1m、短径60cm、残存深さは20cmから50cmで、埋土は黒色粘土である。ナイフ形石器、サヌカイト片が出土した。土器は出土していない。埋土からサヌカイトは混入と考えられ、7世紀から8世紀頃に属すると推定される。

溝8条の内7条は鋤溝と考えられる。残る1条の溝は南北方向で幅2.4m以上、深さ75cm以上である。土師器、瓦器、馬歯が出土した。鎌倉時代後半に属する。条里制に関連する溝と考えられる。



第64図 A区第1遺構面全景(南から)



第65図 A区第2遺構面全景(南から)



第66図 C区全景(南から)

こまがたに
駒ヶ谷遺跡 (01053)

- (1) 羽曳野市駒ヶ谷 (2) 250㎡
(3) 平成14年2月12日～2月13日
(4) 一級河川飛鳥川改修工事 (5) 西口 陽一

調査に至る経緯

調査地は、標高32m、飛鳥川の河川敷に所在する。調査地の南東側が駒ヶ谷遺跡内で、北西側が遺跡外である。

今回、一級河川飛鳥川が改修されることになり、急速、試掘・確認調査を実施したものである。

調査区域に7箇所の特レンチを設定し、土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しつつ、機械及び人力で掘り下げ、調査を実施した。

調査結果

№1 トレンチ

調査区域の北西端に設定した。層序は、盛土が55cmある。その下に、厚さ12cmの茶褐色粘質細砂層がある。酸化鉄の沈積が認められたため、無遺物ではあるが、中世～近世にかけての耕土層と考えられた。その下に、灰色～灰黄色の無遺物の砂



第67図 調査区位置図



第68図 調査状況 (右が飛鳥川)

層や粘土層があり、厚さ80cmの灰褐色粘質土層に達する。この層は、北側に位置する山からの流入土と考えられるが、古墳時代中期～後期の円筒埴輪片が1点出土した。地山は、固い茶褐色砂礫層で、地表下2.3mで達する。遺構は検出されなかった。

№2 トレンチ

層序は、盛土が70cmある。その下に厚さ90cmの無遺物の砂層や粘土層があり、固い茶褐色砂礫層の地山に達する。遺構は検出されず、地表下2.3mまで掘削したが、無遺物であった。

№3 トレンチ～№7 トレンチ

いずれも旧の耕土層の上に0.5～1.8mの厚さの盛土層があり、その下に厚さ1.2～1.8mの砂層や粘土層がある。無遺物で飛鳥川の河川内堆積層と考えられた。地表下3mまで掘削したが、遺構・遺物は検出されなかった。

まとめ

今回の試掘・確認調査実施地区については、顕著な遺構・遺物は検出されなかった。河川改修工事に関して、発掘調査の必要はない旨、事業者に回答した。



第69図 №3 トレンチ (北西から)

なかのきた
中野北遺跡 (01055)

- (1) 富田林市中野町 (2) 39mf
(3) 平成14年3月26日～3月27日
(4) 府道美原太子線(栗ヶ池工区) 道路改良事業 (5) 西口 陽一

調査地は標高57m、石川の段丘上に所在する。中野北遺跡内で、すぐ東には高野街道があり、西は栗ヶ池に接している。

今回、主要地方道美原太子線が建設されることになり、急遽、確認調査を実施したものである。

Na.1 トレンチ

調査区域の西側に設定した。層序は、盛土が225cmあり、一抱えもある底石が包含されていた。以下、厚さ18cmの旧耕土・床土層があり、その下



第70図 調査区位置図



第71図 Na.1 トレンチ (東から)

に厚さ21cmの遺物包含層である暗灰茶褐色粘質土層があった。遺構は発見されなかった。

遺物は、弥生時代のサヌカイト製石棺、古墳時代の須恵器・土師器、平安時代の土師器などが混在していた。

地山は、厚さ16cmの灰褐色粘質土層や厚さ20cmの灰黄褐色粘質土層の下に洪積段丘である茶褐色砂礫層があった。地表下3mまで掘削したが無遺物であった。

Na.2 トレンチ

調査区域の東側に設定した。層序は、盛土が186cmあった。以下、厚さ18cmの旧耕土・床土層があり、その下に厚さ16cmの遺物包含層である暗灰褐色粘質土層があった。遺構は検出されなかった。遺物は、古墳時代の須恵器・土師器、平安時代の土師器が混在していた。地山は、包含層の直下

にあり、洪積段丘である茶褐色砂礫層であった。調査の結果、事業予定地内から明確な遺物包含層が検出された。遺物包含層は西側で厚く、東側で薄かった。地山層も東に高く西に低いことから、東から西に土層の堆積の続いていたことが判明した。よって、事業者には道路建設工事に先立って、事業予定地内全域の発掘調査が必要と回答した。



第72図 Na.2 トレンチ (南西から)

城山（長原）遺跡（01060・02002）

- (1) 大阪市平野区長吉戸7丁目 (2) 172㎡
(3) 平成14年2月19日～4月25日
(4) 寝屋川流域下水道事業 (5) 藤田 道子

城山（長原）遺跡は、大阪市の南東部に位置し、八尾市に近接している。2001年3月刊行の大阪府文化財分布図では城山遺跡は長原遺跡に含まれて遺跡範囲は記されていない。しかし今回の調査区は、近畿自動車道建設に伴い1983年から1986年にかけて城山遺跡として調査が行われた区間に隣接しており、この時の調査成果を踏まえる必要があるため、城山遺跡の名称を残して記述する。

今回の調査区は近畿自動車道の橋脚の間に設定された直径14.7mの下水道管渠到達壁坑である。城山遺跡として調査が実施された南北方向総延長約2kmのうち北部地域に該当し、北側の亀井遺跡まではほぼ直進で200mのところにあたる。

約1.5mの盛土層を除去したT.P. +8.5m前後で調査区の東側に埋没河川を検出した。T.P. +7.5m前後までは中世の耕作土層で鋤溝等を検出した。この耕作土層を除去すると奈良時代の耕作土層でT.P. +7.3m前後まで青灰色粘土～粘質シルト層が続く。これらの時代で検出した溝等の方向はすべて南北方向である。

今回の調査区では01-1、01-2号墳の2基の古墳と、01-1、01-2号墓の2基の弥生時代方形周溝墓を検出した。

古墳は黒灰色粘質シルトを主体とする層の上に築かれている。01-1号墳は調査区東側で検出した方墳であるが、調査区内ではコーナー部を一箇所検出したのみである。墳丘の一边は7m以上、周濠は巾約3m、検出深さ1m、墳丘盛土は最高で60cm残存していた。墳丘及び周濠から埴輪、須恵器、木製品が出土した。出土した須恵器は最古段階のものに比定でき、01-1号墳は5世紀初頭に築造されたものと思われる。

01-2号墳は調査区南西で検出した小方墳である。1号墳と同様黒灰色シルト上面に築かれていたが、墳丘盛土が10cm未満しか残存していなかったこと、墳丘の平面形が2.5×3.5mと非常に小さいことから当初は方形周溝墓と考えていた。しかし土層観察と周濠内から出土した韓式土器により小方墳であることが判明した。周濠は幅約1.5m、検出深さ40cmである。

城山遺跡は現在長原遺跡に含まれており、発見できた古墳も長原古墳群に含まれることになるが、

1980年代の城山遺跡の調査で発見された8基の古墳と共に、城山古墳群ともいべき一支群を構成しているといえよう。

弥生時代の2基の方形周溝墓はいずれも青灰色シルト層上面に築かれている。01-1号墓は調査区南半に検出した。東半部は上層の古墳01-1号墳により削平されてお大半は調査区外に延びると思われる。東側の周溝は01-1号墳に削平されており原形をとどめていない。西側の周溝は検出幅約1mである。墳丘の平面形は隅丸長方形と思われる。墳丘上で甕棺1基、供獻土器を発見した。甕棺検出面より約10cm掘り下げたところで、墓坑を検出した。墓坑は幅1.4m、検出長さ90cmで、大半は調査区外となる。木棺の痕跡は検出できなかった。

01-2号墓は調査区北半で検出した。01-1号墓同様東半部は01-1号墳により削平されているが、平面形は隅丸長方形と思われる。墳丘の復元上幅は6×5m、周溝底からの墳丘高は約90cmである。墳丘から西側の周溝に転落した状態の供獻土器を発見した。1号墓、2号墓共に出土した土器から弥生時代中期後半に築造されたと思われる。

弥生時代遺構面のベース層である青灰色シルトの下層は、約1m流水堆積層が続き、T.P. +4.5m前後で長原地山と呼称されている白色粘土に到達したが、遺物は出土しなかった。



第73図 01-1号墳全景（南から）

<普及啓発・広報事業>

●調査事務所の利用

A 会議等

- ・平成13年9月29日
第43回大阪府埋蔵文化財研究会
テーマ「大阪府の小方墳を考える」

B 調査スライド検討会

- ・平成13年5月9日
辻本 武「守口市掘遺跡の調査成果」
- ・平成13年6月13日
藤田道子「田井中遺跡（平野川第7調査区）出土の3号木棺について」
- 宮崎泰史「葦屋北遺跡の調査成果」
- ・平成13年7月11日
阿部幸一「茨木市総持寺遺跡の調査成果」
- ・平成13年8月8日
中井貞夫「掘立柱建物に付属する竈」
- ・平成13年9月12日
今村道雄「河南町加納平石古墳群の調査成果」
- ・平成13年10月10日
竹原伸次「岸和田市古井遺跡の調査成果」
- ・平成13年11月14日
横田 明「八尾市木の本遺跡の調査成果」
- ・平成13年12月12日
西川寿勝「池上曾根、陶器南、岸和田城跡、余部遺跡の調査成果」
- ・平成14年1月9日
山上 弘「枚方市招提中町遺跡 弥生時代中期方形周溝墓」
- 小浜 成「唐櫃山古墳出土埴輪と前期の埴輪」
- ・平成14年2月13日
非西貴子「羽曳野市野々上西遺跡の調査成果」
- ・平成14年3月13日
奥 和之「茨城市安成遺跡の調査成果」

●発掘調査の現地説明会

- ・平成13年6月9日
岸和田市 岸和田城跡 参加 約400人
- ・平成14年1月19日
茨木市 福井遺跡 参加 約150人(地元対象)
- ・平成14年1月26日
美原町 余部遺跡 参加 約100人
- ・平成14年3月9日
河南町 シシヨツカ古墳 参加 約800人

●遠報展の開催

府教育委員会が実施した発掘調査や遺物整理事

業の成果をいち早く公開するため、府立泉北考古資料館第1展示室において遠報展を9回開催した。

- 第6回 「木の本遺跡（八尾市）
－古墳時代中期の集落－」
平成13年2月27日～4月22日
陶質土器、韓式系軟質土器など32点
- 第7回 「葦屋北遺跡（四條畷市）
－古墳時代中期の集落－」
平成13年4月24日～6月7日
製塩土器、須恵器、土師器、陶質土器、移動式竈、U字形土製品、滑石製白玉・右孔円板・赤彩石製品など35点
- 第8回 「招提中町遺跡（枚方市）
－枚方台地最古の弥生集落－」
平成13年6月19日～8月5日
石鏃、石包丁、太型蛤刃石斧、叩き石、砥石、石錐、石製短剣、扁平片刃石斧、赤色顔料、石棒、異形勾玉、弥生土器、草袋形土器など60点
- 第9回 「葦屋北遺跡（四條畷市）
－1540年前の実用的な馬具が出土－」
平成13年7月24日～8月5日
木製輪鍬（2点）、木製輪鍬復元品、移動式竈、滑石製品など30点
- 第10回 「新堂廃寺（富田林市）
－南河内最古の古代寺院－」
平成13年8月7日～10月14日
垂木先瓦、軒丸瓦（飛鳥寺式、山田寺式、川原寺式、平城京式）、軒平瓦（重弧文、平城京式）、文字線刻瓦、鬼瓦、鴟尾など14点
- 第11回 「余部遺跡（美原町）
－中世鋳物師のふるさと－」
平成13年10月16日～12月9日
鉄鍋鋳型、環状金属器の鋳型、輪羽口、砥石、地鎮に使われた土師皿、青磁碗、井筒の羽釜、三足の羽釜、瓦質羽釜など47点
- 第12回 「岸和田城二の丸跡発見の製造関連品（岸和田市）－大阪の陣の武器製造工房－」
平成13年12月11日～平成14年1月27日
鉄滓約5kg、輪羽口、土師質灯明皿、備前撞り鉢、丹波撞り鉢、唐津焼（皿、碗）、瀬戸焼皿、銅銭、軒丸・丸・平瓦など27点
- 第13回 「総持寺遺跡（茨木市）
－円形周溝墓と埋もれた古墳群－」
平成14年1月29日～平成14年3月24日
ガラス管玉、土器棺、須恵器（把手付碗、高杯、杯蓋、杯身）、「調」線刻須恵器など9点
- 第14回 「掘遺跡（守口市）

—埋もれた古墳と中世の屋敷跡—
 平成14年3月26日～平成14年5月26日(予定)
 須恵器(埴瓶、杯蓋、子持壺)、滑石製紡錘車、
 瓦質小皿、土師皿、白磁碗、瓦器碗、土師鍋な
 ど20点

●優品展の開催

府教育委員会が所蔵する重要な考古資料を年度
 前半、府立泉北考古資料館において展示した。

第1回優品展

名称：「百濟寺の古瓦」
 展示期間：平成13年4月3日～9月30日
 展示品：軒丸瓦5点、軒平瓦1点、磚2点

●里帰り展の開催

独立行政法人国立博物館提唱による「博物館所
 蔵の考古資料相互活用促進事業」に基づいて、東
 京国立博物館から府内出土考古資料を借用し、府
 立泉北考古資料館において「里帰り展」を開催し
 た。

第3回里帰り展

展示期間：平成13年10月2日～14年3月24日
 展示品：田口山遺跡(枚方市)出土磨製石剣
 (石戈?)1点、
 白雉塚古墳(枚方市)出土須恵器杯
 1点、土師器杯1点、須恵器片一括、
 埴輪片一括、甕玉1点
 小計6件(東京国立博物館から借用)
 白雉塚古墳(枚方市)出土須恵器高
 杯1点(枚方市教育委員会から借用)
 合計7件

本府より下記の資料を、東京国立博物館に貸し
 出した。

安威遺跡(茨木市)出土土師器(小型埴、壺、
 瓶、甕、高杯、埴)、須恵器(杯、碗、把手付
 甕、甕) 合計 23点

●府庁別館における考古資料の展示

府庁別館1階及び8階に設置した展示ケース内
 の考古資料の入れ替えを行った。

- ・平成12年7月16日から13年10月15日 まで
 (1F)岸之本南遺跡(富田林市)出土 土師
 器(高杯、碗、甕)陶質土器(高杯、
 甕)須恵器杯など8点
- (8F)更良岡山遺跡(四條驛市)出土 円筒
 埴輪5点、家形埴輪1点
- ・平成13年10月16日から15年3月まで(予定)
 (1F)「府立大手前高等学校出土の韓式系土器」
 大坂城跡(大阪市)出土 陶質土器(高

杯、碗、甕)軟質土器(高杯)以上6点
 (8F)「特別史跡百濟寺跡出土の古瓦」
 百濟寺跡(枚方市)出土 軒丸瓦5点、
 軒平瓦1点、磚2点

●出土文化財の整理、点検と台帳作成事業

厚生労働省緊急地域雇用特別基金による委託事
 業として、本府が保管している出土文化財の点検、
 整理とコンテナ台帳の作成等を行った。

なお本事業は平成11年度から実施している。

- ・コンテナ点検・台帳作成 28,000箱
 (泉北収蔵庫、外環高架下収蔵庫、大井収蔵庫、
 東大阪文化財収蔵庫、泉北考古資料館内第1
 収蔵庫)
- ・台帳データ入力 86,900箱
 (泉北収蔵庫、外環高架下収蔵庫、大井収蔵庫、
 東大阪文化財収蔵庫、泉北考古資料館内第1
 収蔵庫)
- ・遺物洗浄 560箱
 (外環高架下収蔵庫)

平成11・12・13年度事業による総計は次のとお
 りである。

- ・コンテナ点検・台帳作成 113,500箱
- ・台帳データ入力 124,900箱
 (既存台帳の入力含む)

なお、コンテナ台帳の記載項目は 1. 遺跡名
 (遺跡略号) 2. 調査地区名 3. 調査年度
 4. 資料内容(出土遺構、層位等) 5. 資料の
 材質 6. 整理段階 7. 備考・その他(コンテ
 ナの充填率など)とした。

<資料数一覧>

●出土遺物(コンテナ数)(平成14年3月31日現在)

- ・泉北考古資料館内第1収蔵庫 10,559箱
 堺市若松台
- ・泉北収蔵庫 32,962箱
 高石市綾園4丁目
- ・大井収蔵庫 12,529箱
 藤井寺市西大井
- ・外環高架下収蔵庫 7,592箱
 藤井寺市西古壺
- ・志紀収蔵庫 2,471箱
 八尾市志紀町西
- ・北部収蔵庫 2,659箱
 摂津市鳥飼中
- ・東大阪文化財収蔵庫 65,821箱

東大阪市長田東
・文化財調査事務所 7,155箱
堺市竹城台

合計 141,748箱

*緊急地域雇用による再整理等で前年度より減少

●民俗資料

・文化財調査事務所
谷口家資料 221点
上辻家資料 132点
守田コレクション 約200点
上平家資料 150点
畑野家資料 68点
三宅家資料

大恩寺資料
前西家資料 22件

●その他の資料（平成13年12月末現在）

・文化財調査事務所
図面資料 4,697ケース（注1）
写真資料 6,669ケース
台帳 2,655冊（注2）
パネル 626点（注3）
図書 28,153冊

（注1）合冊している場合は台帳種類毎に1冊と数える。

平成13年3月末4,600ケース

（注2）平成13年3月末2,604冊

（注3）平成13年3月末597冊

*再整理等で前年度より減少したものがあ

平成13年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行出版物

大阪府埋蔵文化財調査報告

- 2001-1 『招提中町遺跡』 - 府営枚方牧野東住宅建て替えに伴う弥生時代墓域の調査 -
- 2001-2 『余部遺跡』 中世河内鑄物師の工房群及び屋敷地の調査
- 2001-3 『屍遺跡』
- 2001-4 『磯之上十ノ坪遺跡』 - 府営岸和田磯之上住宅建て替えに伴う発掘調査 -
- 2001-5 『岸和田城跡』 - 東の二の丸の調査 -
- 2001-6 『跡部遺跡』
- 2001-7 『禪定寺・宇保・神田北遺跡』

概要報告

- 『田能遺跡群発掘調査概要・Ⅲ』 - 農地還元利活用事業「壘田地区」に伴う発掘調査 -
- 『天王地区遺跡確認調査概要』 - 大阪府宮中山間地域総合整備事業「天王地区」の調査 -
- 『紅葺山南遺跡発掘調査概要』
- 『讃良郡桑里遺跡（葦屋北遺跡）発掘調査概要・Ⅳ』 - 大阪府四條畷市所在 -
- 『加納古墳群・平石古墳群発掘調査概要』
- 中山間地域総合整備事業（南河内こごせ地区）に伴う -
- 『男里遺跡発掘調査概要・Ⅵ』 - 府営ため池等整備事業（泉南Ⅱ地区・双子上池）に伴う -

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 5

資料の貸出・掲載・閲覧

長期貸出資料

貸出・展示先	貸出品	借入品
徳島県歴史資料館	銅土器9点・土師器7点・新石器5点 石土器4点・石斧3点・石鏃6点・他2点 銅器類1点 岡山鏡など4点 黒色土器2点・土師器小皿3点 瓦葺瓦7点・土師器皿4点・漆器唐破片等	粘土遺物 大塚遺跡 上埴遺跡 反道遺跡 九ノ坪遺跡 余野城遺跡
藤井寺古立図書館展示室	小型銅器	三ツ塚古墳
太子町立竹ノ内斎庭歴史資料館	須磨器等一括資料 銀器善具(複製)	須磨古墳群Q1支序 飯山古墓
国立歴史民俗博物館	石土器3点	池上・曾根遺跡
大阪府立ドーンセンター	陶器器・金属器等	大塚遺跡
秋田寺古墳博物館	釘足・銀鍍瓦・銅鍍瓦など	青志部瓦葺
宮北神社史料	寝床8長巻巻文野丸他瓦3点・とらちん2点	白志部瓦葺
大阪府立玉川高等学校	弥生土器5点	船場遺跡
大阪府立人手宮高等学校	銅器器・瓦・金属器等14点	大塚遺跡
東京国立博物館	川部城址2点・春日城址1点	はづみ山古墳・土師の風遺跡
香塚山学院大学	須磨器22点	南島城遺跡
泉崎町立郷土資料館	鉄石1点・瓦葺瓦7点・土師瓦4点・銅器器3点 瓦葺90点	余野城遺跡
和歌山いづみの国歴史館	弥生土器10点・漆器1点 軒瓦5点・軒瓦5点 尖頭器2点・勾玉3点・紡錘器1点 弥生土器15点・木製品24点・石鏃2点 石土器2点・石斧11点・石鏃5点・投擲3点 ウチノ勾玉1点・管玉5点・ガラス片3点 イタシタ下駄等1点・鎌角1点・骨製品7点 銅鏡2点・鏡1点・文字瓦1点	府中遺跡 坂本寺遺跡 大塚遺跡 池上・曾根遺跡
大阪府立東岡高等学校	弥生土器2点・須磨器14点・中炊飯器跡1点 1部銅14点・瓦葺94点・銅器2点・磁石1点 木製品5点・土師1点・キセル1点・加丁器1点 展示パネル15点	茨田田遺跡
池上曾根弥生学館	農具米1ケース	池上・曾根遺跡
泉丘学教育委員会	1,800センチナ	上野・上町家・大塚・中野・練田池・片瀬野・長尾遺跡他
高石学教育委員会	壁輪100センチナ	大塚古墳

短期貸出・掲載許可資料

依頼者	貸出・掲載	写真・遺物	種類・点数	開遺跡	内容
個人	複製	写真	モノクロ2	岡遺跡	発掘調査状況
初芝高等学校	貸出	遺物	石鏃7 土師品2 土師4 石鏃1 銅器器3 瓦1	四ツ池遺跡 四ツ池遺跡 須磨遺跡 弥生土器4 磁石1 須磨器3 新宮古寺	1号12、不輪4、ドルル1 1号1 弥生土器4 磁石1 須磨器3 平瓦1
大阪府文化財調査研究センター	貸出	遺物	石器23	八尾南遺跡	田石部墓全資料②
個人	写真・掲載	銅印	土師1	池上・曾根遺跡	弥生土器2
城陽市教育委員会	貸出・掲載	写真	モノクロ1 カラーポジ1	堂山1号墳 海島磯跡野	鉄矛 須磨器集合写真
初芝高等学校	貸出	遺物	埴輪4 須磨器5 瓦3	土師ノ瓦遺跡 香山池南 新宮古寺	埴輪4 須磨器5 瓦3
初芝市立歴史資料館	貸出・掲載	写真	モノクロ12 カラーポジ1	河内国分寺 河内国分寺	発掘調査状況 発掘調査状況
初芝市立歴史資料館	貸出	遺物	瓦12 銅製品3 鉄製品10 銅鏡2 瓦6	河内国分寺 河内国分寺 河内国分寺 河内国分寺 応徳院古墳外堀	軒瓦4、軒平5、簀3 器輪形瓦1 鉄釘10 倉庫神室2 軒瓦3、軒平3
個人	写真・掲載	陶器	石製品	安城1号墳	磁石石1
徳島市歴史博物館	複製・掲載	写真	木器14 石器27 自然遺物11 土製品3 土器15 土器16	池上・曾根遺跡 池上・曾根遺跡 池上・曾根遺跡 池上・曾根遺跡 池上・曾根遺跡 池上・曾根遺跡	銅、銅板 石器丁、石鏃、磁石、石斧、石刺槍 農具米、魚骨、貝類他 骨器、漆器他 勾玉、管玉、小玉他 壺、罌、高杯他
歴史館いづみさの	貸出・掲載	遺物	須磨器14 カラーポジ2	長溝7号墳 長溝1号墳	杯蓋、杯身、甕他 発掘調査状況
大塚民団芸術陶館ニクスゾ	貸出・掲載	遺物	須磨器1 須磨器1	西山古墳 梅原塚9号墳	高杯 須磨器
藤井寺古立教育委員会	貸出・掲載	写真	モノクロ	土師ノ瓦遺跡	発掘調査状況
堺市博物館	貸出・掲載	遺物	土師3 須磨器19	池田遺跡 須磨器遺跡	弥生土器 軒瓦、杯身、壺、須磨器、銅鍍車他
洲本市立読路文化資料館	貸出	遺物	土師2	小島城遺跡	弥生土器
徳山観光株式会社	貸出・掲載	写真	カラーポジ1	土師山遺跡	軒瓦
株式会社近島書店	複製	写真	カラー	東北考古資料館	資料館の外観、館内、展示品
藤井寺教育委員会	貸出・掲載	写真	モノクロ写真1	二ツ塚古墳	須磨の出土状況
堺市博物館	貸出・掲載	写真	カラー写真4	池田遺跡 須磨器遺跡	遺跡全景1 遺跡全景1、発掘調査状況2

四日市市教育委員会	貸出	遺物	木製品 4 骨製品 1 鉄製品 2 土器 12 瓦製品 5	藤原北遺跡 藤原北遺跡 藤原北遺跡 藤原北遺跡 藤原北遺跡	輪廻 2、刀 1、銅刀台 1 卜骨 1 鉄器 2 銅製品約10、鏡 1、不明品 1 杯盤、杯身他
佐賀県立博物館	貸出・掲載	遺物	土器 16 石器 17 木器 12 瓦 15 土製品 3 自然遺物 11	海上・曾根遺跡 海上・曾根遺跡 海上・曾根遺跡 陸上・曾根遺跡 海上・曾根遺跡 海上・曾根遺跡	壺、甕、漆杯、鉢、ミニチュア他 石斧、砥石、鏃、研、戈、石押他 高杯、碗、鏡、鏡、鏡、鏡他 銅甲冑、菅玉、ガラス小玉他 男性器
(株)青澤社	貸出・掲載	写真	カラーボジ 1	青山 1号墳	器類
横浜歴史博物館	貸出・掲載	写真	カラーボジ 5	海上・曾根遺跡	鏡身瓦、土器、男性器、土上遺物
横浜歴史博物館	貸出・掲載	遺物	土器 16 石器 17 木器 12 瓦 15 土製品 3 自然遺物 11	海上・曾根遺跡 海上・曾根遺跡 海上・曾根遺跡 陸上・曾根遺跡 海上・曾根遺跡 海上・曾根遺跡	壺、甕、漆杯、鉢、ミニチュア他 石斧、砥石、鏃、研、戈、石押他 高杯、碗、鏡、鏡、鏡、鏡他 銅甲冑、菅玉、ガラス小玉他 男性器
本福町教育委員会	貸出・掲載	遺物	陶器 1	大坂城	土野遺跡
株式会社福広	貸出・掲載	写真	カラー写真 2	岸和田城	銅表状況、出土遺物
和泉市教育委員会	貸出・掲載	遺物	埴輪 2 木製品 14 金属製品 6 瓦器 1	大田遺跡 豊中遺跡 牛石跡 7号墳 野々井遺跡	人物埴輪、家形埴輪 壺、下駄、鏃、弓、刀、刺他 瓦具 家形埴輪
個人	転載・掲載	写真	モノクロ	岡遺跡	出土遺物
(株)青澤社	貸出・掲載	写真	カラーボジ 1	古布大溝	発掘調査状況
			カラーボジ 1	陶器窯跡群	発掘調査状況
			カラーボジ 1	北神院六塚	考古学系
			カラーボジ 1	跡部遺跡	瓦器
光臨田舎市ミュージアム	貸出・掲載	写真	カラー写真 1	陶器窯跡群	羽織袴片
宮崎県教育委員会	貸出・掲載	写真	カラー写真 10	藤原北遺跡	発掘調査状況、出土遺物
佐賀県立博物館	貸出・掲載	写真	カラーボジ 17	海上・曾根遺跡	発掘調査状況、出土遺物
福泉考古学研究所付属博物館	貸出・掲載	遺物	石器 1 石器 1 石器 1 石器 1 石器 1	船塚遺跡 吉大井遺跡 青山遺跡 栗原白鳥遺跡 城山遺跡	硝石鏡 硝石鏡 硝石鏡 硝石鏡 硝石鏡
和泉市教育委員会	貸出・掲載	遺物	瓦 2 金属製品 5 埴輪 1	大田遺跡 牛石跡 7号墳 野々井遺跡	勾玉 瓦具 家形埴輪
個人	実照・掲載	図画・拓本	瓦 7	古布大溝	軒丸瓦 1
				河内川中	軒丸瓦 2、軒平瓦 2
				定神院石塔基壇	瓦
(有)アート・ユア	貸出・掲載	写真	カラーボジ 1	一貫瓦葺き 6号墳	ミニチュア数個他 7
(株)グイ・ゲン社	貸出・掲載	写真	カラーボジ 1	堀込遺跡	須石遺跡写真
西原町教育委員会	貸出・掲載	遺物	陶器 15 土師器 3 瓦 11 土製品 8 金属品 1	岸和田城 岸和田城 岸和田城 岸和田城 岸和田城	付焼物、漆漆焼、甕がけ焼物等 和服鏡 軒丸瓦、丸瓦、平瓦 フイゴ銅口 鉄器、銅鏡
株式会社新人物往來社	貸出・掲載	写真	カラー写真 2	藤原北遺跡	発掘調査状況、出土遺物
個人	実照・掲載	図画	埴輪 6	陶器窯跡群	光形鏡 101号器
大泉書院株式会社	貸出・掲載	写真	カラーボジ 1	ニッ塚古墳	埴輪の出土状況
(株)宝文堂	転載	写真	カラー写真 1	大坂城	白磁片
株式会社学習研究社	転載	写真	モノクロ 2	海上・曾根遺跡	石器
個人	撮影・掲載	写真	モノクロ 2	陶器窯跡群	須石遺跡
大泉書院株式会社	貸出・掲載	写真	カラーボジ 1	ほさみ川遺跡	田口跡部復元写真
			カラーボジ 1	堀込遺跡	須石窯跡群
徳島県教育委員会	貸出・掲載	写真	カラーボジ 2	青山 1号墳	遺物出土状況、出土遺物
株式会社セブプロ	撮影・掲載	写真	カラー写真 4 カラー写真 1	鳥居宮跡群 泉北考古資料館	甕茶室、銅表器、銅表筒パナール 館内展示風景
松原市人権文化館	貸出・掲載	写真	カラーボジ 2	鬼塚川遺跡	木製農具集合写真
海上豊根史跡公園協会	貸出・掲載	写真	モノクロ 7	海上・曾根遺跡	発掘調査状況
個人	撮影・掲載	写真	モノクロ 2	陶器窯跡群	須石窯跡群
財団法人 大阪府史協会	貸出・掲載	写真	カラー写真 3	岸和田城	発掘調査状況、須石窯跡群写真
大阪府神楽株式会社	貸出・掲載	写真	カラーボジ 1	陶器窯跡群	須石窯跡群復元模型
個人	貸出	写真	カラーボジ 40	岸和田城	発掘調査状況
堺市教育委員会	貸出	写真	カラーボジ 2	船塚遺跡	発掘調査状況
吹田市立博物館	貸出・掲載	遺物	瓦 3 埴輪 2 瓦 1 瓦 1	新庄遺跡 新庄遺跡 新庄遺跡 吉志郎瓦葺跡	軒丸瓦 2、軒平瓦 1 埴輪埴器 3 瓦葺 1 軒平瓦 1
佐賀県立博物館	撮影・掲載	写真	カラー写真 5	海上・曾根遺跡	史跡等
(株)青澤社	貸出・掲載	写真	カラーボジ 1	ほさみ川遺跡	旧石室時代住居跡
兵庫県教育委員会	貸出・掲載	遺物	瓦 11 遺物 瓦 1 モノクロ 1	壺崎寺 加治・神宮・島中遺跡 鬼丸 加治・神宮・島中遺跡 鬼丸	軒丸、軒丸瓦 加治・神宮・島中遺跡 鬼丸 加治・神宮・島中遺跡 軒丸瓦
近畿回石器文化館	貸出・展示	遺物	田石器	西大井遺跡	平成 11年度調査出土石器
(株)セブプロ	貸出・掲載	写真	カラーボジ 1	三ツ塚古墳	埴輪の出土状況
海上豊根史跡公園協会	貸出	遺物	埴輪 9	陶器窯跡群	須石器
和泉町教育委員会	貸出・掲載	写真	カラー写真 5	加納・平石古墳群	発掘調査風景
大阪歴史博物館	貸出・掲載	遺物	青銅器 1 土器 1	国府遺跡 瓦葺跡	白銅鏡 特殊銅片

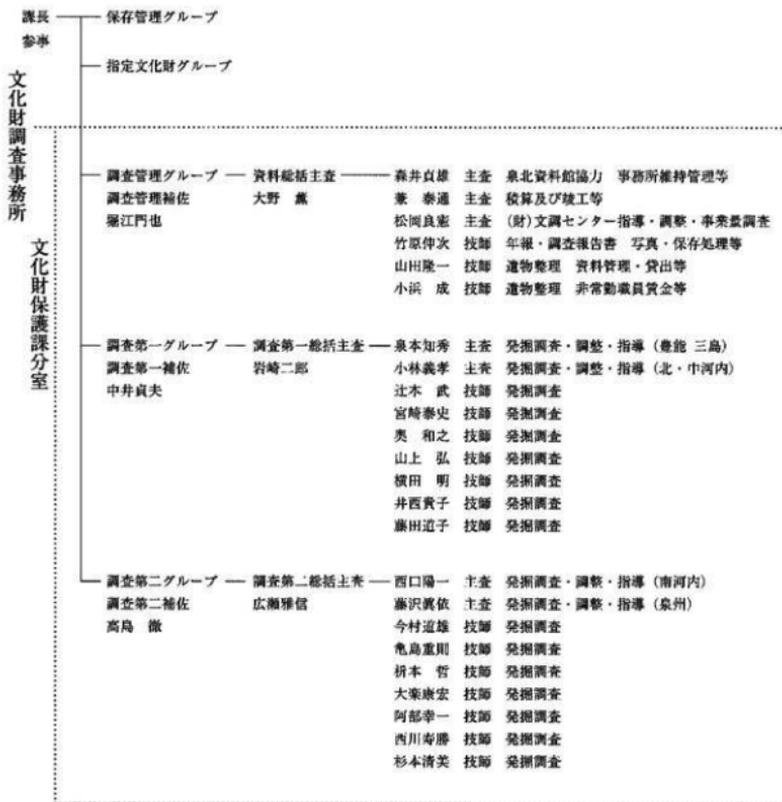
(株) 吉川弘文館	貸出、掲載	写真	モノクロ カラー写真1 カラー写真1	黒屋山古墳 比神院古墳 海鏡石古墳	遺物出土状況 出土行脚地誌 高古2年調査状況
古代武蔵研究会	貸出、掲載	写真	カラー写真3	豊原北遺跡	本製録、および出土状況
藤井寺教育委員会	貸出、掲載	写真	モノクロ写真1	マツ屋古墳	船塚の出土状況
元興寺文化財研究所	掲載承認	写真	カラー1	三ツ塚古墳	船塚の保存処理終了写真
大阪府文化財調査研究センター	貸出、掲載	遺物	不詳7	八尾南遺跡	第6地点出土土器調査資料
茨城州株式会社	貸出、掲載	写真	カラー写真5	岸和田城	船塚調査成果、および出土遺物
藤井寺教育委員会	貸出、掲載	写真	モノクロ写真4 モノクロ写真1 モノクロ写真2	津堂城山古墳 松倉山古墳 交塚1号墳	石塚山土状況、埋蔵 長持形石 全巻、および出土遺物
サイエンス・サテライト	貸出、展示	遺物	二部1 二部1	一軒塚遺跡 船上・竹塚遺跡	縄文土器 糸巻土器
茨城町教育委員会	貸出、展示	写真	カラーボジ14 モノクロボジ2	余部遺跡 新田原遺跡	発掘調査成果 出土遺物
国立歴史民俗博物館	貸出、掲載	遺物	銅器類群 銅器群1	野々井遺跡	「伊弉」鉄函箱 「門内」墓室遺物
岐阜県歴史博物館	貸出、掲載	写真	カラー写真1	はさみ山遺跡	田石器類群
文化財総合保存技術協会	貸出、掲載	写真	モノクロ写真4	大塚城	出土土器
個人	撮影、掲載	写真	モノクロ写真2	甲田南遺跡	石鏡
北総島と緑の総合学術所	撮影、掲載	写真	カラーボジ2	葛原山南遺跡	船塚調査成果
株式会社牛牛社	転載	図説	図説2	東山遺跡	遺構保存計画
秋田市教育委員会	貸出、掲載	写真	カラーボジ5	河合遺跡	発掘調査成果、および出土遺物
(株) セレブ	貸出、掲載	写真	カラーボジ1	孫上・豊原遺跡	出土写真
株式会社角川書店	貸出、掲載	写真	カラー写真1	陶土器類群	船塚群
地田市歴史民俗資料館	貸出、展示	写真	モノクロボジ	宮の前遺跡	発掘調査成果
秋田市立博物館	貸出、掲載	写真	カラー写真1	古志船見遺跡	船塚調査成果
株式会社学習研究社	転載	写真	カラー写真1	香土山古墳	埋蔵
河内町	貸出、掲載	写真	モノクロ写真4	シシヨツガ古墳	発掘調査成果、および出土遺物

資料閲覧

河内	資料内容	遺跡
河内長野市教育委員会	図説	西大井遺跡
(財) 大阪府文化財調査研究センター	縄文土器	伊達遺跡
(財) 大阪府文化財調査研究センター	玉、銅製土器	船塚北遺跡
愛媛大学	木器	木の木遺跡
大阪大学	弥生土器	船上・船塚遺跡
大阪大学	弥生土器	船上・竹塚遺跡
奈良大学大学院	銅器群	陶土器類群
(財) 山形県市文化財センター	銅器群	陶土器類群
富山県立博物館	銅器類群	陶土器類群
茨城大学	銅器類群	陶土器類群
茨城県博物館	銅器類群	陶土器類群
茨城県教育委員会	銅器類群、瓦	大平寺遺跡、河内団分小
新市博物館	銅器群	陶土器類群
大阪歴史博物館	銅器群	陶土器類群
(株) アルファ	石鏡	香土遺跡、甲田南遺跡
駒沢大学	銅器群	陶土器類群
秋田市立博物館	瓦	新庄遺跡
(財) 大阪府文化財調査研究センター	図石群	西大井遺跡
大阪府立大学	土器群	豊原遺跡、船塚遺跡
福原寺古字研究所附属博物館	図石群	北岡遺跡
(財) 大阪府文化財調査研究センター	写真	西原井遺跡
徳島文化博物館	銅器群等	伊弉田城
オリエント・ニア大学	銅器	鳥取寺、大塚遺跡
花園大学	銅器群	陶土器類群
和歌山県立博物館	銅器群	野々井遺跡群
富岡県立大学	銅器群	吉野遺跡
(財) 大阪府文化財調査研究センター	銅器群	陶土器類群
京都大学	石鏡	香土遺跡、甲田南遺跡
藤井寺教育委員会	瓦	宇尾遺跡、田中遺跡
大阪府立大学	土器群	西大井遺跡
藤井寺教育委員会	瓦	丹波塚寺
大阪府立大学	報告書	西大井遺跡他
秋田市立博物館	瓦、銅器類他	新庄遺跡、古志船見遺跡
船塚遺跡研究会	船塚関連遺物	岸和田城、全部遺跡
立命館大学	銅器群	陶土器類群
大阪大学	銅器群	陶土器類群
奈良県立博物館	瓦	伊弉田城、はさみ山遺跡
東京都埋蔵文化財センター	図石群	西大井遺跡
個人	銅器群	陶土器類群
大阪府立大学	報告書	宮下遺跡報告書
兵庫県教育委員会	瓦	豊原寺地
個人	埋蔵物	土師ノ屋遺跡他
(財) 大阪府文化財調査研究センター	図石群	八尾南遺跡
国学院大学大学院	銅器群	東原遺跡
養神村教育委員会	銅器群	陶土器類群
徳島県立大学	銅器群	陶土器類群
大阪大学	図石群	八尾南遺跡、田中遺跡、はさみ山遺跡
大阪大学	図石群	八尾南遺跡、田中遺跡、はさみ山遺跡
豊原高野大学	銅鏡	船塚寺古字資料群
藤井寺歴史民俗資料館	銅器群	陶土器類群
同志社大学人文学部	図石群	八尾南遺跡
京都府立大学	銅鏡	土師ノ屋遺跡

京都大学学術文化財研究センター	西文上巻	八尾南遺跡、深ヶ池遺跡
(財) 福島の文化財保存会	新巻巻	附巻巻巻巻
大阪府立大学	写	阪本寺
大分女子大学	巻巻	大分府文化財調査事務所
(財) 石川島経理文化財センター	巻巻巻	巻巻巻巻巻
(財) 大阪府文化財調査研究センター	五	巻木下遺跡、向泉寺跡、岡田寺
大阪大学	目録巻	巻花田、同巻
巻古教育委員会	かまど	巻巻北巻巻
府立西條高等学校	巻巻上巻	巻巻巻巻
親本人学術文化財調査会	五	巻上・巻巻巻巻
奈良大学	石巻	巻上・巻巻巻巻

平成13年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図



大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 6

発行日 2003年 3月31日

発行 大阪府教育委員会

〒540-8571

大阪市中央区大手前 2丁目

☎06-6941-0351

編集 大阪府教育委員会文化財調査事務所

〒590-0105

堺市竹城台 3丁目 21-4

☎072-291-7401

印刷 中島弘文堂印刷所

大阪市東成区深江南 2-6-8

